

デートDVに関する実態調査

平成 24 年3月
京都市

目 次

1. 調査の概要.....	3
2. 調査結果のまとめ.....	4
3. 調査結果の分析.....	9
回答者の属性.....	9
問1 あなたのことについて.....	10
問2 恋愛観・価値観について.....	14
問3 「デートDV」について.....	17
問4 交際相手との関係について.....	23
問5 すべての人への質問.....	43
4. 自由記述のまとめ.....	45
5. 調査結果からみた課題.....	47
6. 調査票.....	59
7. 資料.....	64
座談会参加者.....	64
参考調査一覧.....	64

1. 調査の概要

○調査の目的：若年層の男女共同参画ならびに暴力の意識、実態を明らかにし、今後の施策のための基礎資料とする。

○調査対象：京都市域に拠点を置く大学に在籍する学生

○調査方法：大学における授業を通じた調査票の配布および回収

○調査期間：平成23年11月15日～平成24年1月15日

○有効回収数：672人（有効回収率 52.1%）

○調査内容

1. 恋愛観・価値観について
2. 「デートDV」について
3. 交際相手との関係について

○回収状況

配付数	回収数	有効回収数			有効回収率
1,291票	672票	672票			52.1%
		女性	男性	不明	
		426票 63.4%	245票 36.5%	1票 0.1%	

● 報告書の見方

- (1) 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数（副設問では設問該当対象数）に対する百分比（%）を表している。1人の対象者に2以上の回答を求める設問では、百分比（%）の合計は100.0%を超える。
- (2) 百分比（%）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがある。
- (3) 分類別の表中の百分比（%）は、すべて各分類項目の該当対象数を100.0%として算出した。
- (4) 図表にある「N」は、集計対象票数（あるいは、分類別の該当対象数）を示し、比率は「N」を100.0%として表した。
- (5) クロス集計表の単位は、2段の場合、上段が実数、下段が構成比（%）、1段の場合、構成比（%）である。
- (6) クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、及び「その他」「不明（無回答）」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。

2. 調査結果のまとめ

1. あなた（回答者）のことについて

1-1. 学校・友人関係・家庭・自分自身について

学校については、「楽しい」の割合は、女性5割・男性3割にとどまり、友人関係・家庭に比べて「楽しい」の割合は低い。男性では2割強が『楽しくない』（「どちらかといえば楽しくない」と「楽しくない」の合計）と考えている。

友人関係については、男女とも「楽しい」が半数を超え、『楽しい』（「楽しい」と「どちらかといえば楽しい」の合計）が9割となっている。

家庭については、「楽しい」の割合は女性6割・男性4割強となっている。

自分の事が好きかどうかについて、「まあまあ好き」が男女ともに4割台で最も高く、次いで「あまり好きではない」が3割強で続いている。『自分の事が好き』（「好き」と「まあまあ好き」の合計）の割合は男女ともに6割を超える。

年齢別にみると、男性20歳以上は学校が『楽しくない』が2割台でやや高い。15～19歳では『自分の事がきれい』（「あまり好きではない」と「きれい」の合計）が男女とも4割を超えている。

1-2. 性についての情報源

性についての情報源をたずねたところ、女性では「友人・先輩」が5割、「テレビ・ラジオ」が4割となっている。男性では、「インターネット・携帯」が最も高く6割、「テレビ・ラジオ」、「友人・先輩」、「DVD・ビデオ（映画など）」が5割弱となっており、「インターネット・携帯」と「DVD・ビデオ（映画など）」の割合は女性よりも約30ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性20歳以上では「交際相手（彼氏・彼女）」が3割を超える。男性15～19歳では「テレビ・ラジオ」と「インターネット・携帯」が5～6割台と高い。

[女は男に守られたい（守るべき）ものだ]についての考え方に別けると、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）と肯定する人の情報源は、「友人・先輩」が5割を超えている。また、『そう思う』の女性は「交際相手（彼氏・彼女）」が3割強、男性の場合は「インターネット・携帯」が7割近くにのぼる。

2. 恋愛観・価値観について

2-1. 恋愛観・価値観について

恋愛感・価値観のなかで、[今の社会は、男女の不平等がまだまだある]の考え方に『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が男女とも9割近くを占めている。

[女は男に守られたい（守るべき）ものだ]の考え方では、男女とも『そう思う』が約5割と高く、[彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育する権利がある][付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけない]では約3割となっている。

一方、[女性が嫌がっても、恋人ならセックスしてもかまわないと思う]、[多少の暴力は男らしさだと思う]、[嫉妬からの暴力は、愛している（愛されている）証拠だ]では、『そう思わない』（「ど

ちらかといえそう思わない」と「そう思わない」の合計)の割合が9割を超えている。

性別による差が大きい項目は、[子育て中は、女性は家庭にいるべきだ]、[男性は弱音を吐くべきではない]、[彼氏・彼女がいないのはかわい]、[暴力を振るわれる方にも問題があると思う]で10~20ポイント男性の方が女性よりも『そう思う』の割合が高くなっており、男性は固定的な役割分担意識が強く、恋愛観や価値観の違いに表れている。

デートDVの被害/加害の自覚別にみると、デートDVを受けたことが『ある』(「ある」と「少しある」の合計)と答えた人では、[付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけない]で「そう思わない」が男女とも5割弱と高いが、女性は[女は男に守られたい(守るべき)ものだ]を8割近くが支持している。デートDVを受けたことが『ない』(「あまりない」と「まったくない」の合計)と答えた人では、[暴力を振るわれる方にも問題があると思う]で「そう思わない」が女性5割・男性3割と高い。

DVをしたことが『ある』(「ある」と「少しある」の合計)と答えた人では、男性では[彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育する権利がある]と[暴力を振るわれる方にも問題があると思う]、女性では[彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育する権利がある]と[女は男に守られたい(守るべき)ものだ]の考え方を肯定する割合が高くなっている。

3. 「デートDV」について

3-1. 「デートDV」の認知度

「デートDV」という言葉を聞いたことが「ある」の割合は、女性6割・男性5割となっている。

性についての情報源別にみると、インターネット・携帯を情報源にしている人は、女性の場合(「デートDV」という言葉を聞いたことが)「ある」が7割と高いが、男性は5割を切っている。

[女は男に守られたい(守るべき)ものだ]という考え方について、女性の『そう思わない』で「ある」が6割強と高い。また、男性の『そう思う』では「ない」が5割強となっており、男女とも『そう思わない』の方が『そう思う』よりも「デートDV」という言葉の認知度が高い。

「デートDV」について、「よく知っている」は男女とも1割強にとどまっており、「少し知っている」と合わせても5割に満たない。

身近で「デートDV」を見たり聞いたりしたことについて、男女とも「少しある」が3割を超えて高く、『聞いたことがある』(「よくある」と「少しある」の合計)の割合は約4割となっている。年齢別にみると、男女とも20歳以上で見聞きした経験が15~19歳よりも10ポイント以上高くなっている。

3-2. デートDVの被害経験の有無

男女とも「まったくない」が7割強で最も高い。

経験が『ある』(「ある」と「少しある」の合計)の割合は男女とも1割を超える。

年齢別にみると、20歳以上で『ある』の割合がやや高い。

交際相手がいる/いた人をベースにみると、『ある』の割合は2割近くになっている。

3-3. デートDVの加害経験の有無

男女ともに「まったくない」が最も高く7～8割を占める。

『ある』（「ある」と「少しある」の合計）の割合は、女性1割弱・男性1割強で、男性が6ポイント高い。

年齢別にみると、被害経験と同様に20歳以上で加害経験がやや高い。

4. 交際相手との関係について

4-1. 交際相手について

交際している相手の有無は、「今、交際している相手（彼氏・彼女）がいる」が女性4割弱・男性3割弱で、「今、彼氏（彼女）がいないが、彼氏（彼女）がいたことがある」と合わせると男女とも6割を超える。

年齢別にみると、女性20歳以上で「今、交際している相手（彼氏・彼女）がいる」が4割を超える。男性の15～19歳では「彼氏・彼女がいたことはない」が3割と高い。

〔彼氏・彼女がいないのはかっこわるい〕という考え方に『そう思う』と回答した人では「彼氏・彼女がいたことはない」が男女とも3割強で、『そう思わない』よりも10ポイント以上高い。

4-2. 交際相手と出会ったきっかけ

交際相手と出会ったきっかけは、男女とも「学校」が最も高く6割を超える。次いで、「友人・先輩からの紹介」「部活・クラブ活動」が2割台で続いており、学校関連が多い。

年齢別にみると、女性の15～19歳では「部活・クラブ活動」が3割と高い。また、男性15～19歳では「インターネット・HP」、「携帯サイト」といったネット環境での出会い方が約1割ある。

4-3. 身体的暴力の被害／加害経験

被害の経験は、〔殴るふりをする〕、〔壁をたたいたり、物をけったりする〕が女性1割強、男性1割弱で女性の方がやや高い。

加害の経験は、男女とも〔殴ったりけったりする〕〔殴るふりをする〕が5～10%となっている。

前問でDVを受けたことが『ない』と回答した人で「された」の割合が高いものは、〔殴ったりけったりする〕で男女とも5%、〔壁をたたいたり、物をけったりする〕と〔殴るふりをする〕で女性6%となっており、暴力を受けているにも関わらず、それがデートDVだと認識されていない。

4-4. 精神的暴力の被害／加害経験

被害の経験は、女性は〔無視する〕と〔携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る〕が2割弱、〔大声でどなる〕と〔ブス・頭が悪いなどとバカにする〕でも1割を超えている。男性では〔携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る〕が2割弱で最も高い。

加害の経験は、男女ともに〔無視する〕が2割弱で最も高い。

前問でDVを受けたことが『ない』と回答した人で「された」の割合をみると、〔無視する〕と〔携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る〕で男女とも1割を超えている。

前問でDVをしたことが『ない』と回答した人で、「した」の割合をみると、[無視する]が男女とも1割前後となっている。

4-5. 社会的暴力の被害／加害経験

被害の経験は、女性は[異性の友人と会うと怒る]、[友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる]、[携帯電話をチェックする]が2割弱。男性は、[友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる]が2割弱で最も高く、[異性の友人と会うと怒る]と[携帯電話をチェックする]が1割強となっている。

加害経験は、女性は[携帯電話をチェックする]が1割強で最も高く、男性よりも割合が高い。男性は[友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる]が1割弱となっている。

前問でDVを受けたことが『ない』と回答した人で「された」の割合をみると、[異性の友人と会うと怒る]、[友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる]、[携帯電話をチェックする]で男女とも1割を超えており、他の種類の暴力に比べて被害の認識が薄い。

4-6. 性的強要の被害／加害経験

被害経験は、女性で[セックスに応じないと不きげんになる]と[無理やり抱きついたりキスをしたりする]が1割を超える。男性では、[友だちに二人の性的な関係を話す]が1割弱となっている。

加害経験は、[友だちに二人の性的な関係を話す]が男女とも1割前後で最も高くなっている。

男女で比較すると、[セックスに応じないと不きげんになる]の被害の割合は女性で高く、加害の割合は男性で高い。

前問の被害・加害経験の認識別にみると、[セックスに応じないと不きげんになる]において、被害経験が『ない』と回答した女性で「された」が1割強、逆に加害経験が『ない』と回答した男性で「した」が5%となっている。[友達に二人の性的な関係を話す]においては、男性の場合、被害経験が『ない』で「された」が1割、加害経験が『ない』で「した」が1割となっており、被害も加害も認識が薄い。

4-7. 経済暴力の被害／加害経験

被害経験は、[貸したお金を返さない]が女性3%・男性5%、[イヤだと言っても買い物の代金や食事代を支払わせる]が女性2%・男性4%となっている。

加害経験は、女性では[機嫌が悪くなると自分が出したお金を返せという]が1%、男性では[貸したお金を返さない]が4%で、それぞれ最も高くなっている。

4-8. 暴力を受けた時の感情

男女ともに、「いやだった」が女性6割・男性3割で最も高い。次いで、「むかついた（腹が立った）」が女性4割・男性3割で続いている。また「びっくりした」「相手と別れようと思った」は女性で2割を超えており男性よりも10ポイント以上高い。

「愛されているからこそされたと思った」は男女とも1～2割となっている。また、「何とも思わなかった」は、男性が2割強で女性よりも11ポイント高い。

デートDVの言葉の認知度別にみると、女性で『聞いたことがある』は『聞いたことがない』と比べて「いやだった」、「怖かった」の割合が高い。また、男女とも『聞いたことがない』では「危ないと思った」が0%で、危険だという認識が薄い。

4-9. 暴力を受けてからの状況

暴力にあたる行為を受けた後では、「特に何もなかった」が男女とも約4割で最も高い。女性では「彼氏（彼女）を怒らせないように気を使うようになった」、「彼氏（彼女）と別れようとした」、「彼氏（彼女）と別れた」が2割台、男性では「彼氏（彼女）と別れようとした」、「彼氏（彼女）を怒らせないように気を使うようになった」、「彼氏（彼女）と別れた」が1割台で続いている。

4-10. 相談状況

暴力にあたる行為を受けた時に誰かに相談したかをたずねたところ、「相談した」の割合は女性3割強・男性2割弱。「誰にも相談しなかった」が男女とも約6割を占める。

相談相手は、男女とも「友だち・先輩」が9割を超えている。次いで、男女とも「親」が2割台、「きょうだい」が1割台で続き、相談機関などその他の選択肢は1割未満となっている。

相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が男女ともに6割を超えている。次いで「相談しても仕方がないと思ったから」が女性2割強・男性1割強と続いている。一方、女性は、「自分さえがまんすれば何とかかなと思ったから」、「ほかの人に知られたくなかったから」、「周囲に心配をかけたくなかったから」で1割を超えている。

5. 家庭内での暴力の有無・デートDVをなくす方法について

5-1. 家庭内での暴力の有無

「まったくない」が男女とも7割で最も高い。『ある』（「かなりある」と「まあまあある」の合計）の割合は、女性6%・男性8%となっている。

自己肯定感別にみると、男性の『自分の事がきらい』では、家庭で暴力が『ある』が1割と高い。

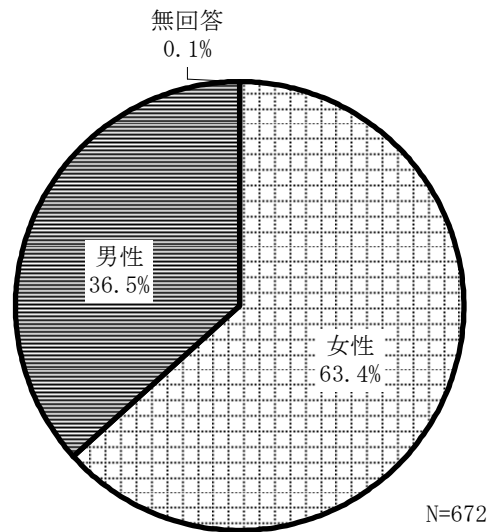
5-2. デートDVをなくす方法

男女ともに「デートDVについて（自分自身が）知ること」が6割強で最も高い。次いで「身近に安心していつでも相談できる場所があること」と「家族や友人など、周囲の人のデートDVへの理解があること」が女性4割強・男性4割弱となっている。

3. 調査結果の分析

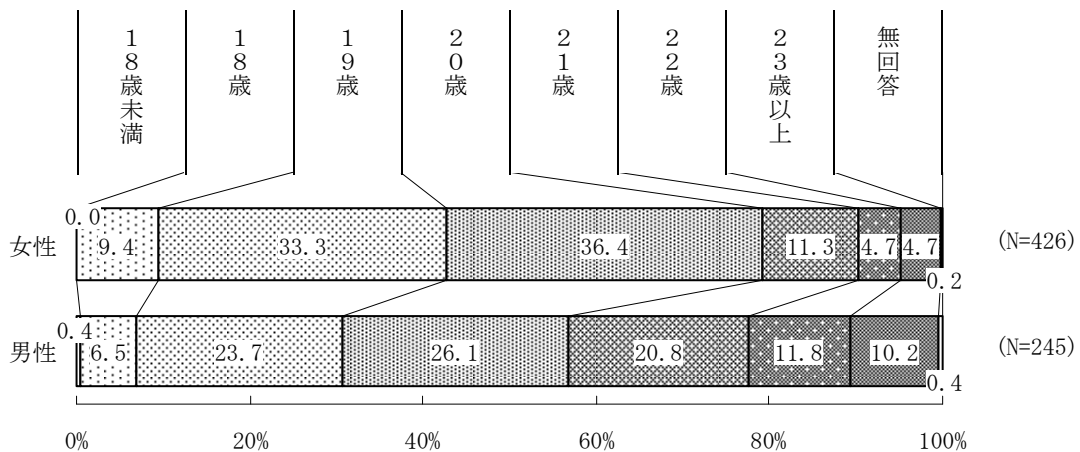
回答者の属性

性別（問1－（1））



回答者の性別は、「女性」が63.4%、「男性」が36.5%で、女性の方が26.9ポイント高い。

年齢（問1－（2））

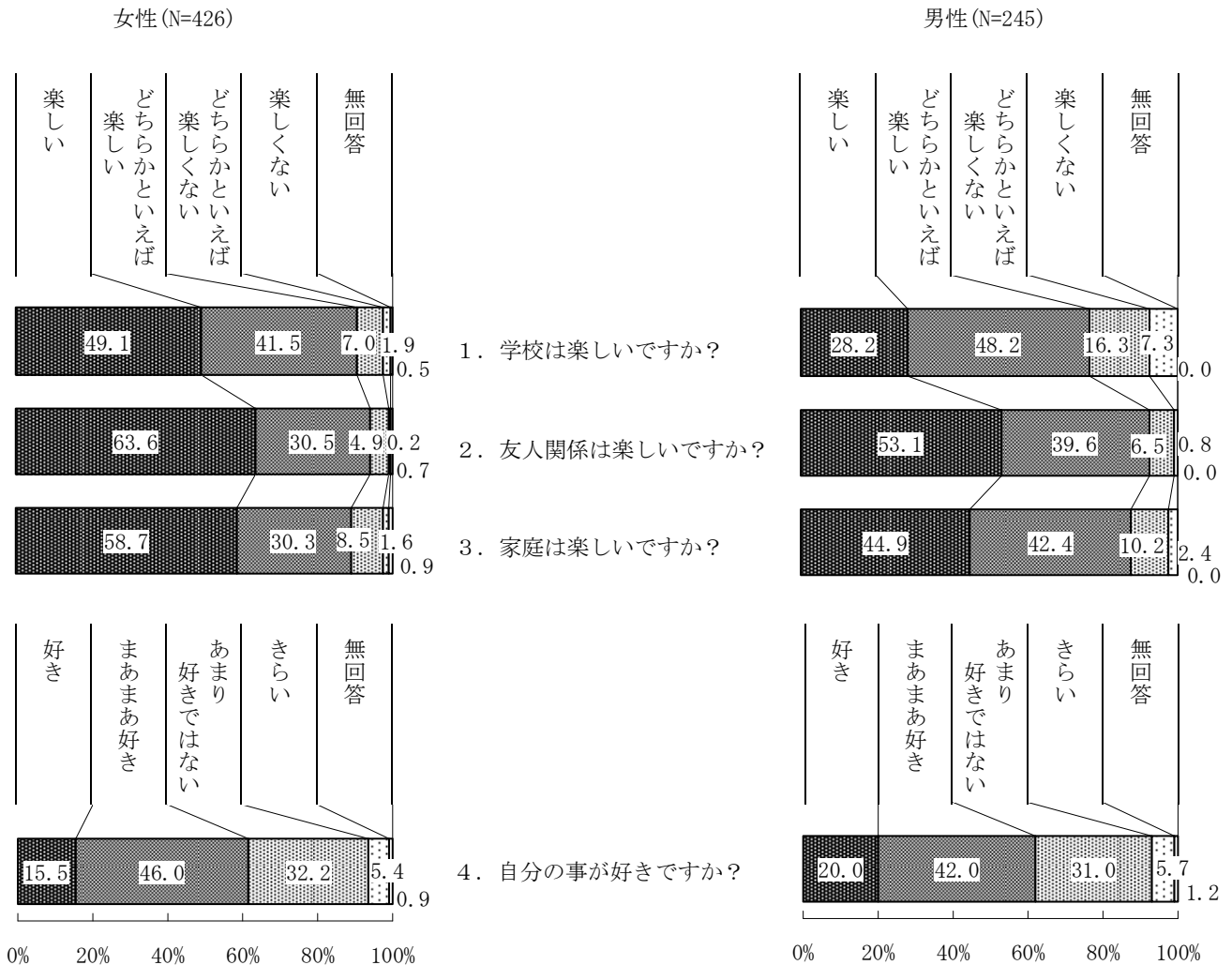


回答者の年齢は、男女ともに、「20歳」が最も高く、女性36.4%・男性26.1%である。次いで、「19歳」が女性33.3%・男性23.7%が続いている。22歳以上の回答者の割合は、女性では約1割、男性では約2割となっている。

問1 あなたのことについて

(3) 次の質問項目について、当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

図1-1 学校・友人関係・家庭・自分自身について



■ 9割の男女が友人関係は『楽しい』と感じている

学校・友人関係・家庭が楽しいかたずねたところ、友人関係については、「楽しい」が女性 63.6%・男性 53.1%と半数を超え、9割の男女が友人関係は『楽しい』（「楽しい」と「どちらかといえば楽しい」の合計）と考えていることがわかる。

家庭については、「楽しい」の割合は女性 58.7%・男性 44.9%で、女性の方が 13.8 ポイント高く、その代わり男性では「どちらかといえば楽しい」の割合が高くなっている。

学校については、「楽しい」の割合は、女性 49.1%・男性 28.2%にとどまり、友人関係・家庭に比べて、「楽しい」と考える割合は低い。また、男性では「楽しくない」の割合が 7.3%と比較的高くなっている。

自分の事が好きかどうかについてもたずねたところ、「まあまあ好き」が男女ともに最も高く、女性 46.0%・男性 42.0%となっている。次いで、「あまり好きではない」が女性 32.2%・男性 31.0%

で続いている。『自分の事が好き』（「好き」と「まあまあ好き」の合計）の割合は男女ともに6割を超えており、『自分の事がきらい』（「あまり好きではない」と「きらい」の合計）を25ポイント前後上回っている。

【年齢別】

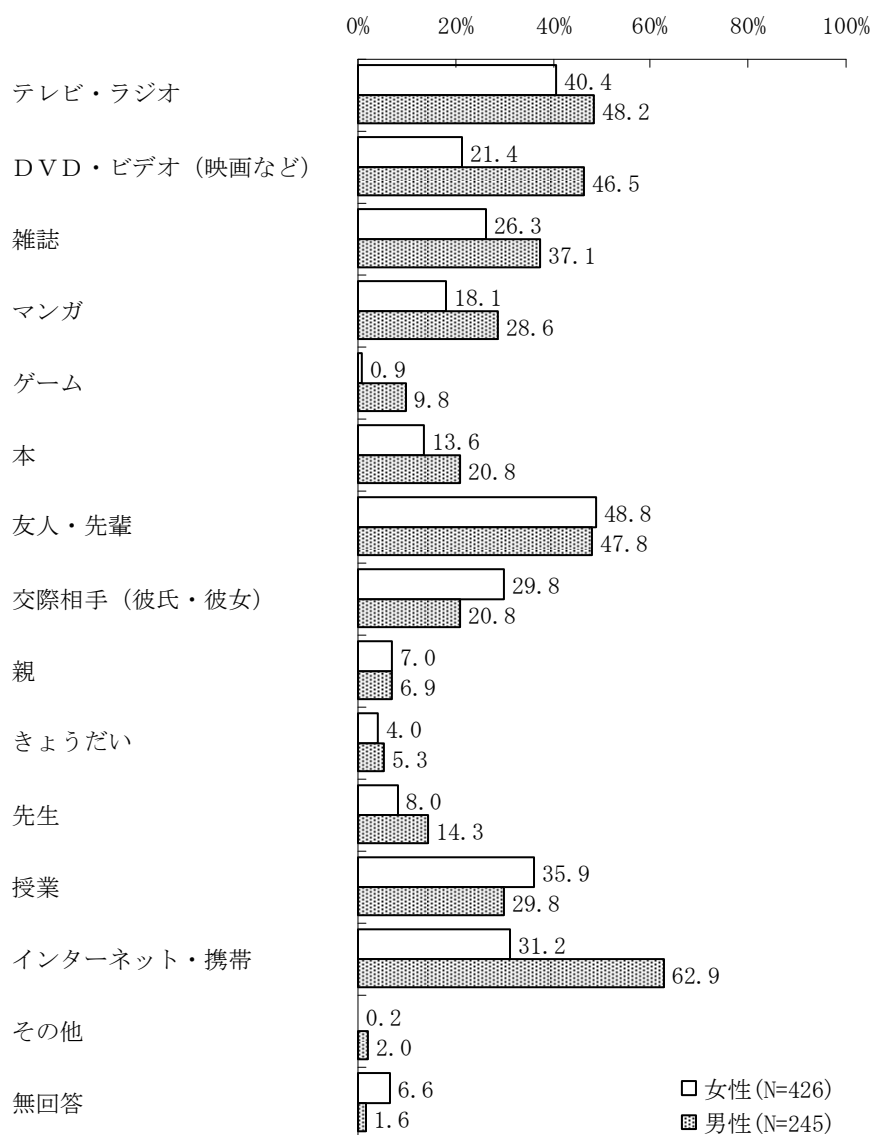
	全体	1. 学校は楽しいですか？					2. 友人関係は楽しいですか？				
		楽しい	どちらかといえば楽しい	どちらかといえば楽しくない	楽しくない	無回答	楽しい	どちらかといえば楽しい	どちらかといえば楽しくない	楽しくない	無回答
全体	672	41.5	43.9	10.4	3.9	0.3	59.8	33.8	5.5	0.4	0.4
女性 15～19 歳	182	50.5	39.6	7.1	1.6	1.1	62.1	28.0	8.2	0.5	1.1
女性 20 歳以上	243	48.1	42.8	7.0	2.1	0.0	65.0	32.1	2.5	0.0	0.4
男性 15～19 歳	75	40.0	41.3	12.0	6.7	0.0	56.0	34.7	8.0	1.3	0.0
男性 20 歳以上	169	23.1	51.5	17.8	7.7	0.0	52.1	41.4	5.9	0.6	0.0

	全体	3. 家庭は楽しいですか？					4. 自分の事が好きですか？				
		楽しい	どちらかといえば楽しい	どちらかといえば楽しくない	楽しくない	無回答	好き	まあまあ好き	あまり好きではない	きらい	無回答
全体	672	53.7	34.7	9.1	1.9	0.6	17.3	44.5	31.7	5.5	1.0
女性 15～19 歳	182	54.9	30.8	9.9	3.3	1.1	10.4	45.1	39.0	4.9	0.5
女性 20 歳以上	243	61.7	29.6	7.4	0.4	0.8	19.3	46.5	27.2	5.8	1.2
男性 15～19 歳	75	53.3	34.7	8.0	4.0	0.0	14.7	41.3	33.3	10.7	0.0
男性 20 歳以上	169	40.8	46.2	11.2	1.8	0.0	22.5	42.6	29.6	3.6	1.8

年齢別にみると、男性 20 歳以上は[1. 学校は楽しいですか？]で「どちらかといえば楽しくない」が 17.8%と高い。15～19 歳では[4. 自分の事が好きですか？]において『自分の事がきらい』の割合が女性 43.9%・男性 44.0%となっており、20 歳以上と比べて高い。

(4) 性についての情報はどこから得ていますか (〇はいくつでも)

図 1-2 性についての情報源



■女性では「友人・先輩」、男性では「インターネット・携帯」の割合が高い

性についての情報源をたずねたところ、女性では「友人・先輩」が最も高く 48.8%、次いで、「テレビ・ラジオ」が 40.4%、他に「授業」、「インターネット・携帯」が 3 割を超えている。

男性では、「インターネット・携帯」が最も高く 62.9%、次いで、「テレビ・ラジオ」48.2%、「友人・先輩」47.8%、「DVD・ビデオ (映画など)」46.5%と続いている。

男女で比較すると、「インターネット・携帯」「DVD・ビデオ (映画など)」では、それぞれ 31.7 ポイント、25.1 ポイント、男性の回答割合が女性よりも高い。一方、「交際相手 (彼氏・彼女)」「授業」などの項目では女性の回答割合が男性よりも高くなっている。

【年齢別】

	全体	テレビ・ラジオ	DVD・ビデオ (映画など)	雑誌	マンガ	ゲーム	本	友人・先輩	交際相手 (彼氏・彼女)	親	きょうだい	先生	授業	インターネット・携帯
全体	672	43.2	30.5	30.2	22.0	4.2	16.4	48.4	26.5	7.0	4.5	10.3	33.6	42.9
女性 15～19 歳	182	41.2	20.3	23.6	15.4	0.5	13.2	46.2	22.5	5.5	4.4	9.3	37.4	31.3
女性 20 歳以上	243	39.9	22.2	28.4	20.2	1.2	14.0	50.6	35.4	8.2	3.7	7.0	35.0	30.9
男性 15～19 歳	75	56.0	42.7	29.3	32.0	10.7	13.3	42.7	17.3	8.0	5.3	16.0	37.3	66.7
男性 20 歳以上	169	44.4	48.5	40.8	27.2	9.5	24.3	49.7	22.5	6.5	5.3	13.6	26.6	61.5

年齢別にみると、女性 20 歳以上では「交際相手（彼氏）」が 35.4%と高い。男性 15～19 歳では「テレビ・ラジオ」が 56.0%、「インターネット・携帯」が 66.7%にのぼる。男性 20 歳以上では「DVD・ビデオ（映画など）」が 48.5%と高い。

【女は男に守られたい（守るべき）ものだという考え方別】

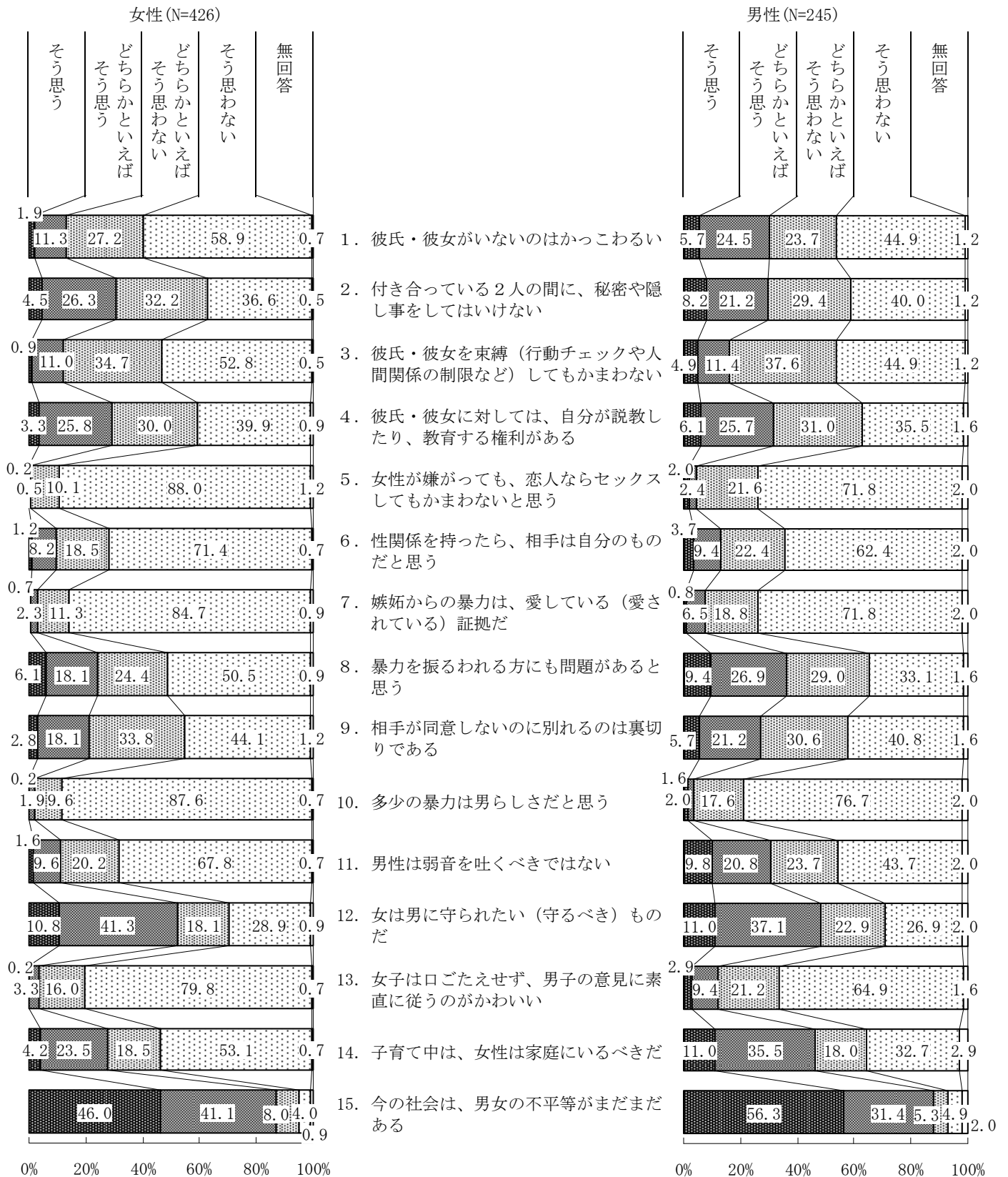
	全体	テレビ・ラジオ	DVD・ビデオ (映画など)	雑誌	マンガ	ゲーム	本	友人・先輩	交際相手 (彼氏・彼女)	親	きょうだい	先生	授業	インターネット・携帯
全体	672	43.2	30.5	30.2	22.0	4.2	16.4	48.4	26.5	7.0	4.5	10.3	33.6	42.9
女性『そう思う』	222	39.6	19.4	26.1	16.7	0.5	11.3	54.5	34.7	7.2	4.5	8.1	33.3	28.8
女性『そう思わない』	200	41.0	23.5	27.0	20.0	1.5	16.5	43.5	24.0	7.0	3.5	8.0	39.5	34.5
男性『そう思う』	118	46.6	41.5	33.9	28.8	8.5	20.3	50.8	22.0	2.5	4.2	9.3	25.4	67.8
男性『そう思わない』	122	50.8	50.8	41.0	28.7	10.7	21.3	45.1	19.7	10.7	6.6	18.0	34.4	59.0

後述の間2 [女は男に守られたい（守るべき）ものだ]という考え方について、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）と回答した人の情報源は男女とも「友人・先輩」が女性 54.5%・男性 50.8%と5割を超える。女性の場合は『そう思う』で「交際相手（彼氏・彼女）」が 34.7%と高く、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）24.0%を 10.7 ポイント上回っている。また、女性の『そう思う』では「インターネット・携帯」が 28.8%と低いが、男性『そう思う』では 67.8%にのぼっている。

問2 恋愛観・価値観について

問2 次のような恋愛観・価値観について、あなた自身はどう思いますか。(〇はそれぞれにひとつ)

図2-1 恋愛観・価値観について



■約半数の男女が[今の社会は、男女の不平等がまだまだある]にたいして「そう思う」と考えている

恋愛感・価値観についてたずねたところ、[今の社会は、男女の不平等がまだまだある]との設問に対して『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）と回答した割合は女性 87.1%・男性 87.7%となっている。

その他の項目では、[女は男に守られたい（守るべき）ものだ]で約5割の男女が『そう思う』と回答している。また[子育て中は、女性は家庭にいるべきだ]で『そう思う』が女性 27.7%・男性 46.5%となっているほか、[彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育する権利がある][付き合い合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけない]では『そう思う』の割合が約3割となっている。

一方、[女性が嫌がっても、恋人ならセックスしてもかまわないと思う][多少の暴力は男らしさだと思う][嫉妬からの暴力は、愛している（愛されている）証拠だ]では、『そう思う』の割合は5%前後と低く、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合が9割を超えている。

男女別にみると、[女は男に守られたい（守るべき）ものだ][付き合い合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけない]を除いた項目では、男性が『そう思う』と回答した割合は女性を上回っている。[子育て中は、女性は家庭にいるべきだ]（18.8ポイント差）、[男性は弱音を吐くべきではない]（19.4ポイント差）、[彼氏・彼女がいないのはかわい]（17.0ポイント差）、[暴力を振るわれる方にも問題があると思う]（12.1ポイント差）では男女差が大きく開いており、女性と比べて男性は固定的な役割分担意識が強く、恋愛観や価値観の違いに表れている。

【デートDVの被害／加害の自覚別】

	全体	2. 付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけない					4. 彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育する権利がある					
		そう思う	どちらかといえば	そう思わない	どちらかといえば	そう思わない	無回答	そう思う	どちらかといえば	そう思わない	どちらかといえば	そう思わない
全体	447	5.4	23.5	32.9	37.8	0.4	4.7	23.7	32.4	39.1	0.0	
被害	女性『ある』	42	9.5	23.8	21.4	45.2	0.0	9.5	23.8	31.0	35.7	0.0
	女性『ない』	256	4.3	23.8	35.2	36.3	0.4	3.1	21.9	31.6	43.4	0.0
	男性『ある』	17	11.8	11.8	29.4	47.1	0.0	17.6	23.5	41.2	17.6	0.0
	男性『ない』	125	5.6	24.0	32.0	37.6	0.8	4.8	27.2	33.6	34.4	0.0
加害	女性『ある』	17	11.8	23.5	29.4	35.3	0.0	17.6	29.4	41.2	11.8	0.0
	女性『ない』	281	4.6	23.8	33.5	37.7	0.4	3.2	21.7	31.0	44.1	0.0
	男性『ある』	16	12.5	18.8	18.8	43.8	6.3	18.8	37.5	31.3	12.5	0.0
	男性『ない』	126	5.6	23.0	33.3	38.1	0.0	4.8	25.4	34.9	34.9	0.0

	全体	8. 暴力を振るわれる方にも問題があると思う					12. 女は男に守られたい(守るべき)ものだ					
		そう思う	どちらかといえば	そう思わない	どちらかといえば	そう思わない	無回答	そう思う	どちらかといえば	そう思わない	どちらかといえば	そう思わない
全体	447	6.3	20.8	27.7	45.2	0.0	10.5	38.7	21.0	29.8	0.0	
被害	女性『ある』	42	9.5	19.0	28.6	42.9	0.0	26.2	50.0	9.5	14.3	0.0
	女性『ない』	256	3.5	19.1	25.0	52.3	0.0	8.2	38.7	18.4	34.8	0.0
	男性『ある』	17	17.6	23.5	35.3	23.5	0.0	11.8	47.1	11.8	29.4	0.0
	男性『ない』	125	8.8	24.8	32.0	34.4	0.0	9.6	34.4	31.2	24.8	0.0
加害	女性『ある』	17	5.9	17.6	29.4	47.1	0.0	29.4	41.2	11.8	17.6	0.0
	女性『ない』	281	4.3	19.2	25.3	51.2	0.0	9.6	40.2	17.4	32.7	0.0
	男性『ある』	16	25.0	25.0	31.3	18.8	0.0	6.3	37.5	25.0	31.3	0.0
	男性『ない』	126	7.9	24.6	32.5	34.9	0.0	10.3	35.7	29.4	24.6	0.0

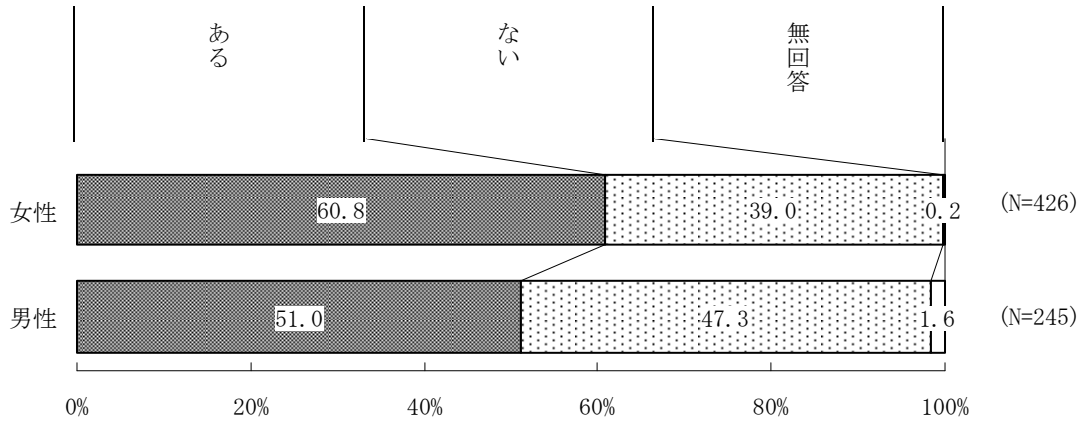
デートDVの被害／加害の自覚別にみると、デートDVを受けたことが『ある』（「ある」と「少しある」の合計）と答えた人では、[付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけない]で「そう思わない」が女性45.2%・男性47.1%と高くなっているが、一方で、女性は[女は男に守られたい（守るべき）ものだ]で「そう思う」が26.2%、「どちらかといえばそう思う」が50.0%と高い割合で支持されている。受けたことが『ない』（「あまりない」と「まったくない」の合計）と答えた人では、[暴力を振るわれる方にも問題があると思う]で「そう思わない」が女性52.3%・男性34.4%と高い。

DVをしたことが『ある』（「ある」と「少しある」の合計）と答えた人では、[彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育する権利がある]と[暴力を振るわれる方にも問題があると思う]において、男性で「そう思う」が18.8%・25.0%と高く、暴力を肯定する人が多い。また、女性でDVをしたことが『ある』と答えた人では[彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育する権利がある]と[女は男に守られたい（守るべき）ものだ]において、「そう思う」が17.6%・29.4%と高くなっている。

問3 「デートDV」について

(1) あなたは、「デートDV」という言葉を聞いたことがありますか。

図3-1 「デートDV」という言葉について



■男女とも過半数が、「デートDV」という言葉を聞いたことがある

「デートDV」という言葉を聞いたことがあるかたずねたところ、「ある」の割合は女性 60.8%・男性 51.0%となっており、約 10 ポイント、女性の方が男性よりも「ある」の割合が高くなっている。

【年齢別】

	全体	ある	ない	無回答
全体	672	57.3	42.0	0.7
女性 15～19 歳	182	63.7	36.3	0.0
女性 20 歳以上	243	58.4	41.2	0.4
男性 15～19 歳	75	50.7	48.0	1.3
男性 20 歳以上	169	50.9	47.3	1.8

年齢別にみると、女性 15～19 歳で「ある」が 63.7%となっており、女性 20 歳以上よりも高い。男性は 15～19 歳と 20 歳以上で大きな差はみられない。

【性についての情報源別】

	全体	ある	ない	無回答
全体	672	57.3	42.0	0.7
女性①～⑥テレビ～本	252	66.7	33.3	0.0
女性⑦友人・先輩	208	60.6	39.4	0.0
女性⑧交際相手	127	66.9	33.1	0.0
女性⑨⑩親、きょうだい	37	59.5	40.5	0.0
女性⑪⑫先生、授業	159	62.9	37.1	0.0
女性⑬インターネット・携帯	133	69.2	30.8	0.0
男性①～⑥テレビ～本	185	54.6	43.8	1.6
男性⑦友人・先輩	117	50.4	49.6	0.0
男性⑧交際相手	51	58.8	41.2	0.0
男性⑨⑩親、きょうだい	22	59.1	40.9	0.0
男性⑪⑫先生、授業	79	51.9	48.1	0.0
男性⑬インターネット・携帯	154	48.7	51.3	0.0

性についての情報源別にみると、女性は交際相手からとインターネット・携帯からとで（「デートDV」という言葉を聞いたことが）「ある」がそれぞれ 66.9%・69.2%と高くなっている。男性はインターネット・携帯では「ない」が 51.3%で「ある」48.7%をわずかに上回る。

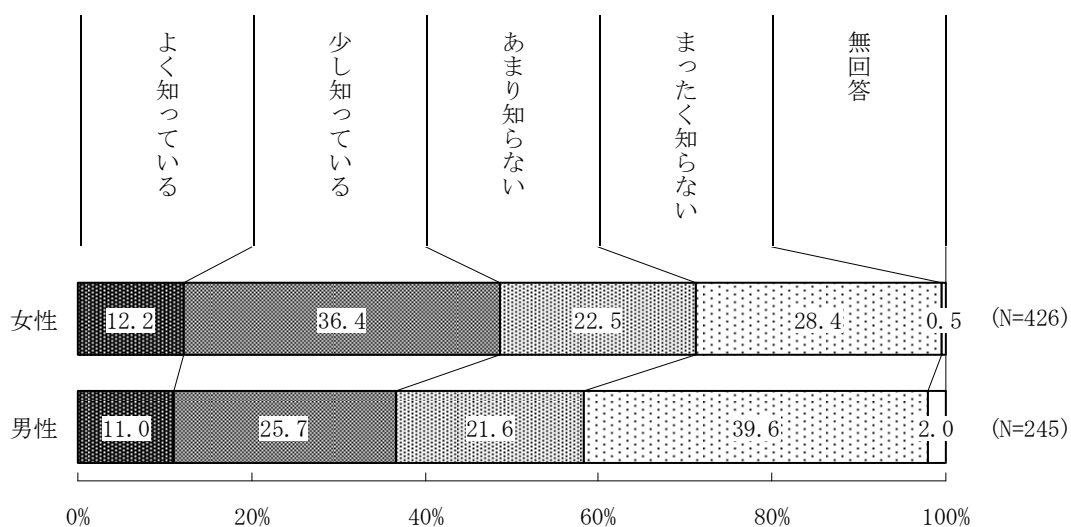
【女は男に守られたい（守るべき）ものだという考え方別】

	全体	ある	ない	無回答
全体	672	57.3	42.0	0.7
女性『そう思う』	222	59.5	40.5	0.0
女性『そう思わない』	200	63.5	36.5	0.0
男性『そう思う』	118	44.9	54.2	0.8
男性『そう思わない』	122	59.0	41.0	0.0

後述の間2 [女は男に守られたい（守るべき）ものだ]という考え方について、女性の『そう思わない』で「ある」が 63.5%と高い。また、男性の『そう思う』では「ない」が 54.2%となっており、男女とも『そう思わない』の方が『そう思う』よりも「デートDV」という言葉の認知度が高い。

(2) あなたは、「デートDV」を知っていますか。

図3-2 「デートDV」を知っているか



■ 「デートDV」について「よく知っている」人は約1割

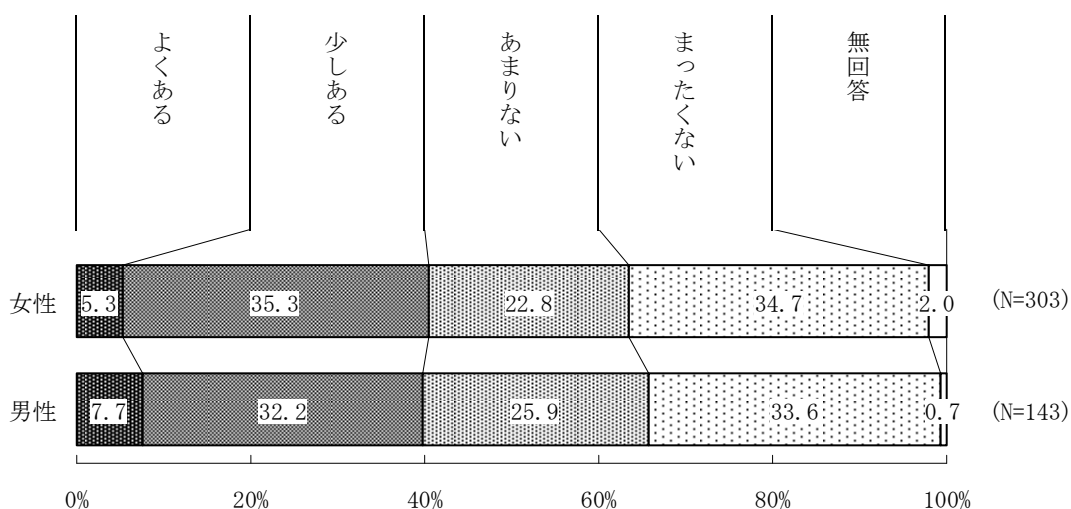
「デートDV」について知っているかたずねたところ、女性では、「少し知っている」が最も高く36.4%、次いで、「まったく知らない」28.4%、「あまり知らない」22.5%が続いている。

男性では、「まったく知らない」が最も高く39.6%、次いで、「少し知っている」25.7%、「あまり知らない」21.6%と続いている。

「よく知っている」は女性12.2%・男性11.0%で、男女ともに最も割合が低くなっている。

(3) あなたは、身近で「デートDV」を見たり聞いたりしたことがありますか。

図3-3 「デートDV」を見聞きしたことがあるか



■ 「デートDV」を身近で見聞きしたことがある男女は、「よくある」と「少しある」を合わせ4割強

身近で「デートDV」を見たり聞いたりしたことがあるかたずねたところ、女性では「少しある」最も高く35.3%、次いで、「まったくない」34.7%、「あまりない」22.8%、「よくある」5.3%となっている。

男性においても、「まったくない」が最も高く33.6%、次いで、「少しある」32.2%、「あまりない」25.9%、「よくある」7.7%となっている。

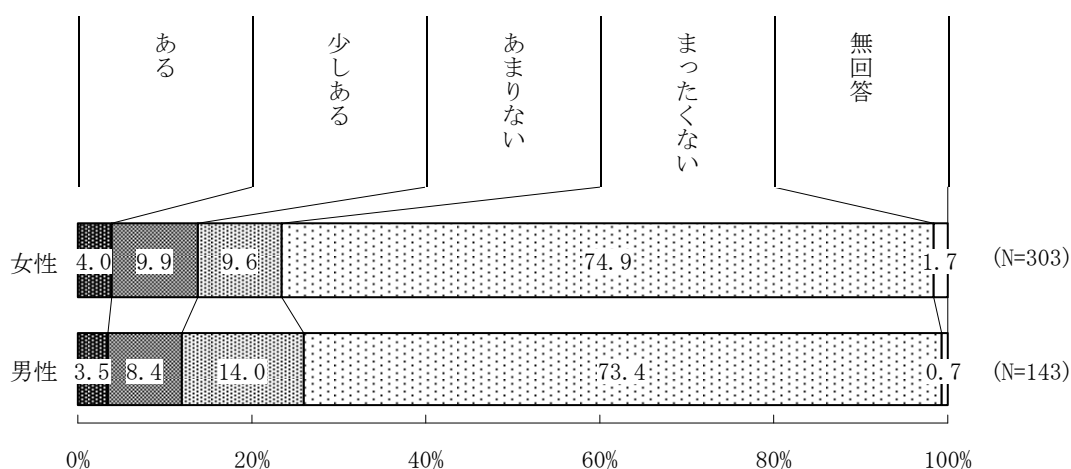
【年齢別】

	全体	よくある	少しある	あまりない	まったくない	無回答
全体	447	6.0	34.2	23.7	34.5	1.6
女性 15～19歳	136	2.9	31.6	24.3	39.0	2.2
女性 20歳以上	166	7.2	38.6	21.7	30.7	1.8
男性 15～19歳	44	11.4	20.5	22.7	43.2	2.3
男性 20歳以上	98	6.1	37.8	27.6	28.6	0.0

年齢別にみると、20歳以上で見聞きした経験が女性45.8%・男性43.9%となっており、15～19歳と比べると高い。

(4) あなたは、デートDVを受けたことがありますか。

図3-4 デートDVを受けたことがあるか



■ 1割強がデートDVを受けたことが「ある」もしくは「少しある」と回答

デートDVを受けたことがあるかたずねたところ、男女ともに「まったくない」が多数を占め女性74.9%・男性73.4%となっている。「ある」の割合は、女性4.0%・男性3.5%、「少しある」の割合は、女性9.9%・男性8.4%となっている。

【年齢別】

	全体	ある	少しある	あまりない	まったくない	無回答
全体	447	3.8	9.4	11.0	74.5	1.3
女性 15～19歳	136	2.2	6.6	9.6	79.4	2.2
女性 20歳以上	166	5.4	12.7	9.6	71.1	1.2
男性 15～19歳	44	6.8	0.0	11.4	79.5	2.3
男性 20歳以上	98	2.0	12.2	15.3	70.4	0.0

年齢別にみると、20歳以上で被害経験が『ある』（「ある」と「少しある」の合計）が女性18.1%・男性14.2%で15～19歳以下よりも割合が高い。

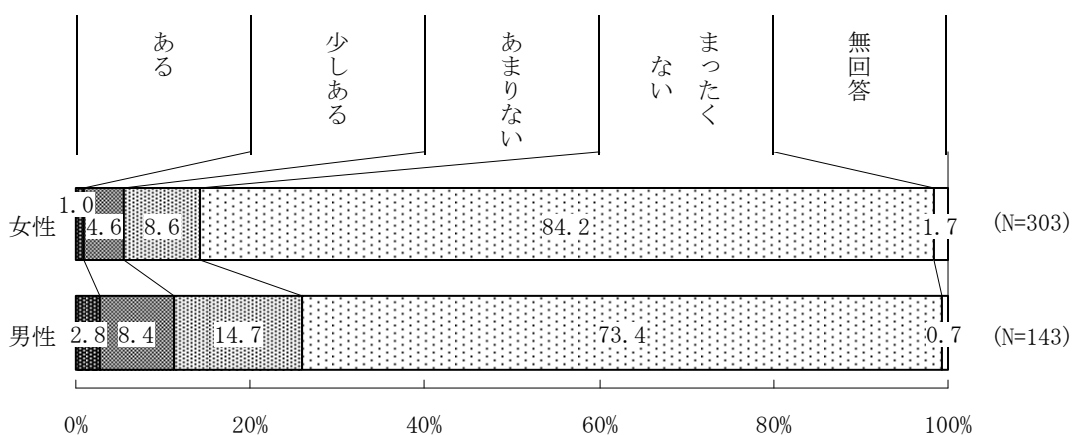
【交際経験者ベース】

	全体	ある	少しある	あまりない	まったくない	無回答
全体	447	3.8	9.4	11.0	74.5	1.3
女性「いる/いた」	197	5.1	14.2	11.2	68.5	1.0
男性「いる/いた」	92	5.4	10.9	16.3	66.3	1.1

交際相手がいる/いた人をベースにみると、被害経験が『ある』の割合は女性19.3%・男性16.3%で、全体よりもやや高い割合となっている。

(5) あなたは、デートDVをしたことがありますか。

図3-5 デートDVをしたことがあるか



■デートDVをしたことが「ある」もしくは「少しある」は、女性の5.6%、男性の11.2%

デートDVをしたことがあるかをたずねたところ、男女ともに「まったくない」が最も高く女性84.2%・男性73.4%となっている。

「ある」は女性1.0%・男性2.8%、「少しある」は女性4.6%・男性8.4%となっており、『したことがある』（「ある」と「少しある」の合計）の割合は女性で5.6%、男性で11.2%、女性の割合が5.6ポイント高くなっている。

【年齢別】

	全体	ある	少しある	あまりない	まったくない	無回答
全体	447	1.6	5.8	10.5	80.8	1.3
女性 15～19 歳	136	0.0	3.7	5.1	89.0	2.2
女性 20 歳以上	166	1.8	5.4	11.4	80.1	1.2
男性 15～19 歳	44	4.5	4.5	9.1	79.5	2.3
男性 20 歳以上	98	2.0	10.2	17.3	70.4	0.0

年齢別にみると、20歳以上で『したことがある』が女性7.2%、男性12.2%となっており、15～19歳と比べてやや高い。

【交際経験者ベース】

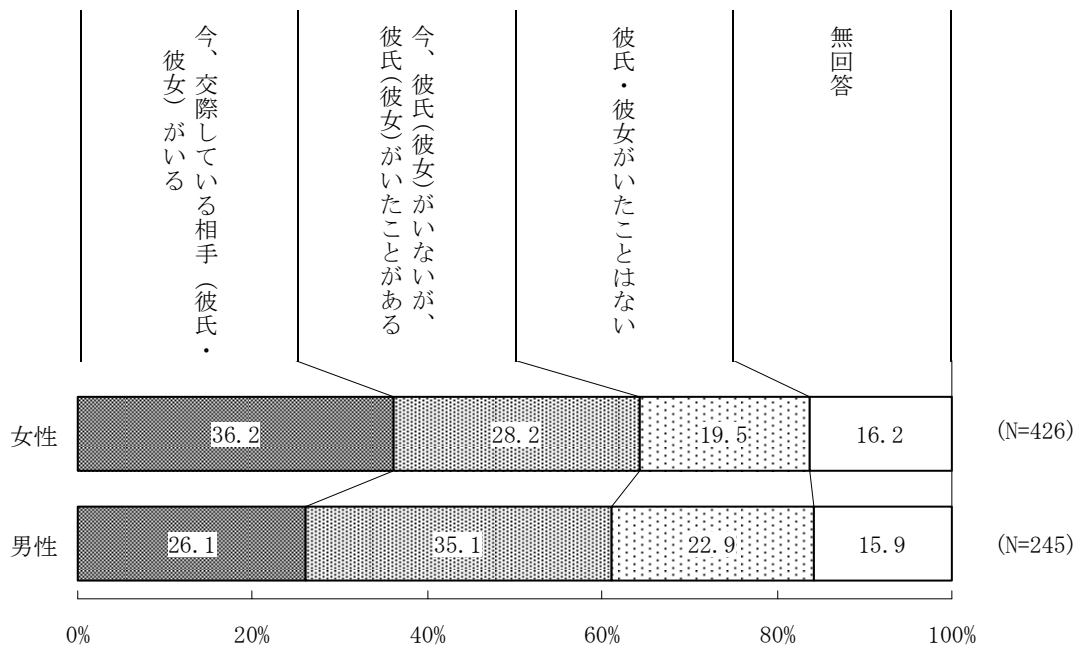
	全体	ある	少しある	あまりない	まったくない	無回答
全体	447	1.6	5.8	10.5	80.8	1.3
女性「いる/いた」	197	1.0	6.1	12.2	79.7	1.0
男性「いる/いた」	92	4.3	9.8	18.5	66.3	1.1

交際相手がいる/いた人をベースにみると、加害経験が『ある』が女性7.1%・男性14.1%で、全体よりもやや高い割合となっている。

問4 交際相手との関係について

(1) あなたは、交際している相手（彼氏・彼女）がいますか？

図4-1 交際相手について



■約6割が交際中もしくは交際経験あり

交際している相手がいるかたずねたところ、女性では「今、交際している相手（彼氏・彼女）がいる」が最も高く 36.2%、次いで、「今、彼氏（彼女）がいないが、彼氏（彼女）がいたことがある」28.2%、「彼氏・彼女がいたことはない」19.5%と続いている。

男性では、「今、彼氏（彼女）がいないが、彼氏（彼女）がいたことがある」の 35.1%が最も高く、次いで、「今、交際している相手（彼氏・彼女）がいる」26.1%、「彼氏・彼女がいたことはない」22.9%と続いている。

【年齢別】

	全体	今、交際している相手 (彼氏・彼女)がいる	今、彼氏(彼女)がい ないが、彼氏(彼女) がいたことがある	彼氏・彼女がいたこと はない	無回答
全体	672	32.4	30.7	20.8	16.1
女性 15～19 歳	182	27.5	34.6	23.1	14.8
女性 20 歳以上	243	42.4	23.5	16.9	17.3
男性 15～19 歳	75	22.7	34.7	30.7	12.0
男性 20 歳以上	169	27.8	35.5	19.5	17.2

年齢別にみると、女性 20 歳以上で「今、交際している相手（彼氏・彼女）がいる」が 42.4%と高い。男性の場合は 15～19 歳で「彼氏・彼女がいたことはない」が 30.7%と高い。

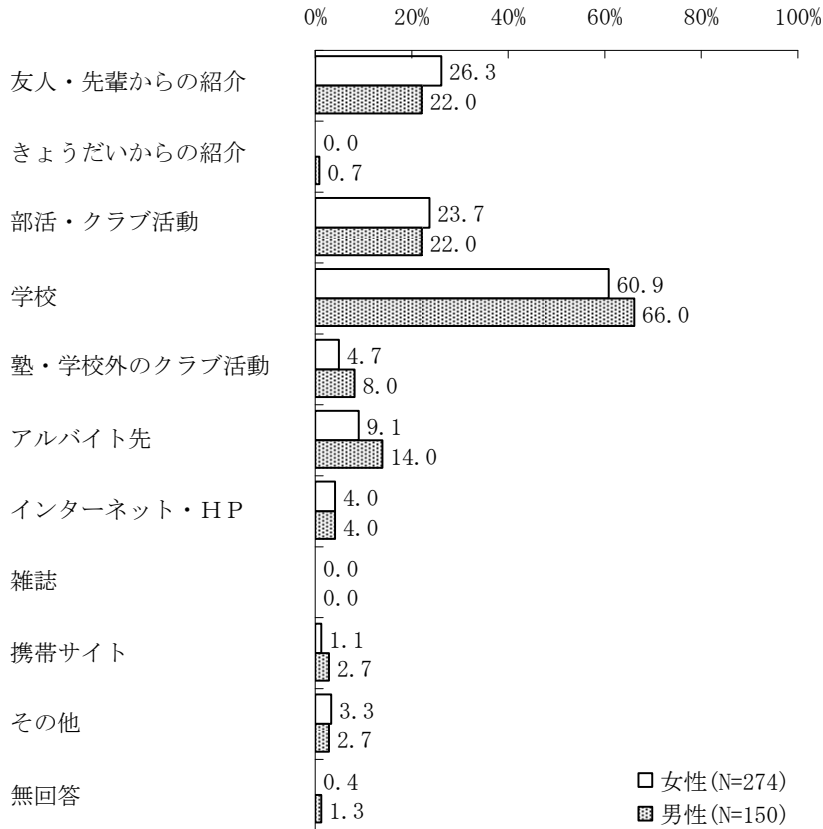
【彼氏・彼女がいないのはかっこわるいという考え方別】

	全体	今、交際している相手 (彼氏・彼女)がいる	今、彼氏(彼女)がい ないが、彼氏(彼女) がいたことがある	彼氏・彼女がいたこと はない	無回答
全体	672	32.4	30.7	20.8	16.1
女性『そう思う』	56	14.3	35.7	35.7	14.3
女性『そう思わない』	367	39.5	27.0	17.2	16.3
男性『そう思う』	74	13.5	32.4	31.1	23.0
男性『そう思わない』	168	32.1	36.9	19.6	11.3

「彼氏・彼女がいないのはかっこわるい」という考え方に『そう思う』と回答した人で「彼氏・彼女がいたことはない」が男女とも 3 割強となっており、『そう思わない』よりも 10 ポイント以上高くなっている。

(2) (1)で「交際相手(彼氏・彼女)がいる」「いたことがある」と答えた人への質問です。交際相手と出会ったきっかけを教えてください(〇はいくつでも)

図4-2 交際相手と出会ったきっかけ



■交際相手と出会ったきっかけは、学校関連が多い

交際相手と出会ったきっかけについてたずねたところ、「学校」の割合が最も高く女性 60.9%・男性 66.0%、次いで、「友人・先輩からの紹介」「部活・クラブ活動」が2割台で続いている。

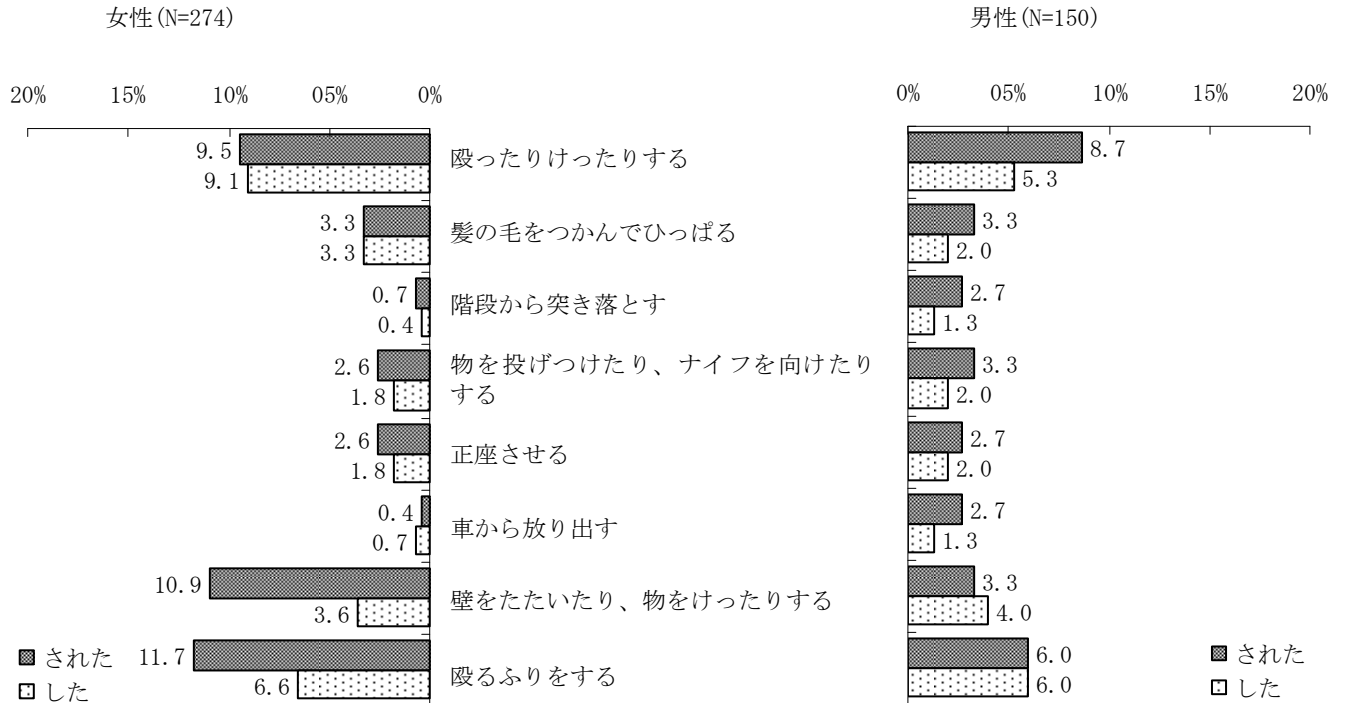
【年齢別】

	全体	友人・先輩からの紹介	きょうだいからの紹介	部活・クラブ活動	学校	塾・学校外のクラブ活動	アルバイト先	インターネット・HP	雑誌	携帯サイト	その他	無回答
全体	424	24.8	0.2	23.1	62.7	5.9	10.8	4.0	0.0	1.7	3.1	0.7
女性 15～19歳	113	23.0	0.0	31.0	67.3	4.4	4.4	6.2	0.0	1.8	2.7	0.0
女性 20歳以上	160	28.8	0.0	18.8	56.9	5.0	12.5	2.5	0.0	0.6	3.8	0.0
男性 15～19歳	43	18.6	2.3	23.3	67.4	7.0	2.3	9.3	0.0	2.3	4.7	0.0
男性 20歳以上	107	23.4	0.0	21.5	65.4	8.4	18.7	1.9	0.0	2.8	1.9	1.9

年齢別にみると、女性の15～19歳で「部活・クラブ活動」が31.0%と高い。男女とも20歳以上では「友人・先輩からの紹介」が女性28.8%・男性23.4%となっており、15～19歳よりもやや高い。割合として高くないものの、男性15～19歳では「インターネット・HP」9.3%、「携帯サイト」2.3%といったネット環境での出会い方が約1割となっている。

(3) 別紙の一覧から、交際相手（彼氏・彼女）に「したことがある」または交際相手から「されたことがある」ものをいくつか選び、表に直接○をつけてください。

図4-3 身体的なこと



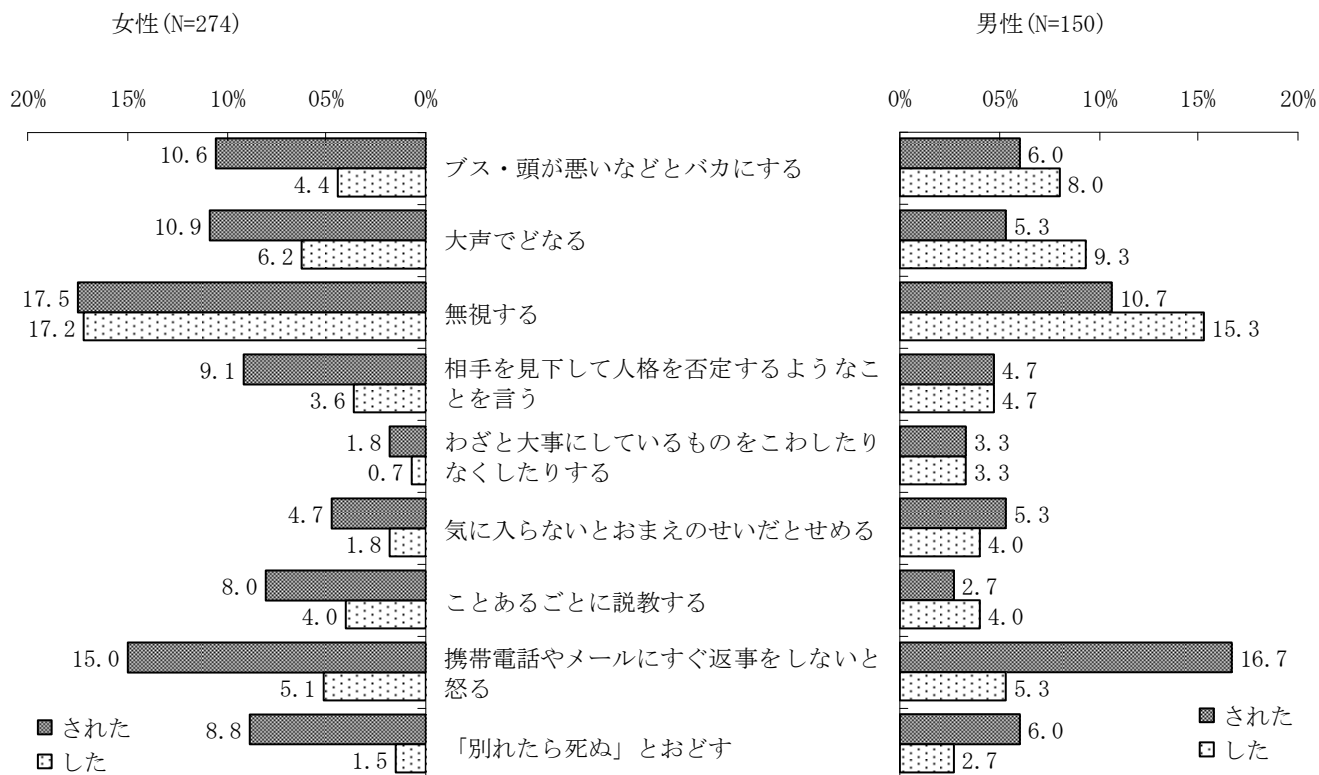
■ [壁をたたいたり、物をけったりする]、[殴るふりをする]ことをされた女性はそれぞれ約1割

身体的なことで、交際相手からされたことがあるものについてたずねたところ、女性は[殴るふりをする]が最も高く11.7%、次いで、[壁をたたいたり、物をけったりする]10.9%、[殴ったりけったりする]9.5%となっている。男性は、[殴ったりけったりする]が8.7%で最も高く、次いで、[殴るふりをする]が6.0%で続いている。

したことがあるものについてもたずねたところ、女性は[殴ったりけったりする]が最も高く9.1%、次いで、[殴るふりをする]が6.6%で続いている。男性では、[殴るふりをする]が最も高く6.0%、次いで、[殴ったりけったりする]が5.3%で続いている。

男女で比較すると、[壁をたたいたり、物をけったりする][殴るふりをする]ことを「された」割合は、それぞれ7.6ポイント、5.7ポイントずつ女性が男性よりも高くなっている。[殴ったりけったりする]ことを「した」割合は、3.8ポイント女性が男性よりも高くなっている。

図4-4 精神的なこと



■ 「された」ことのトップは、女性では[無視する]こと、男性では[携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る]こと

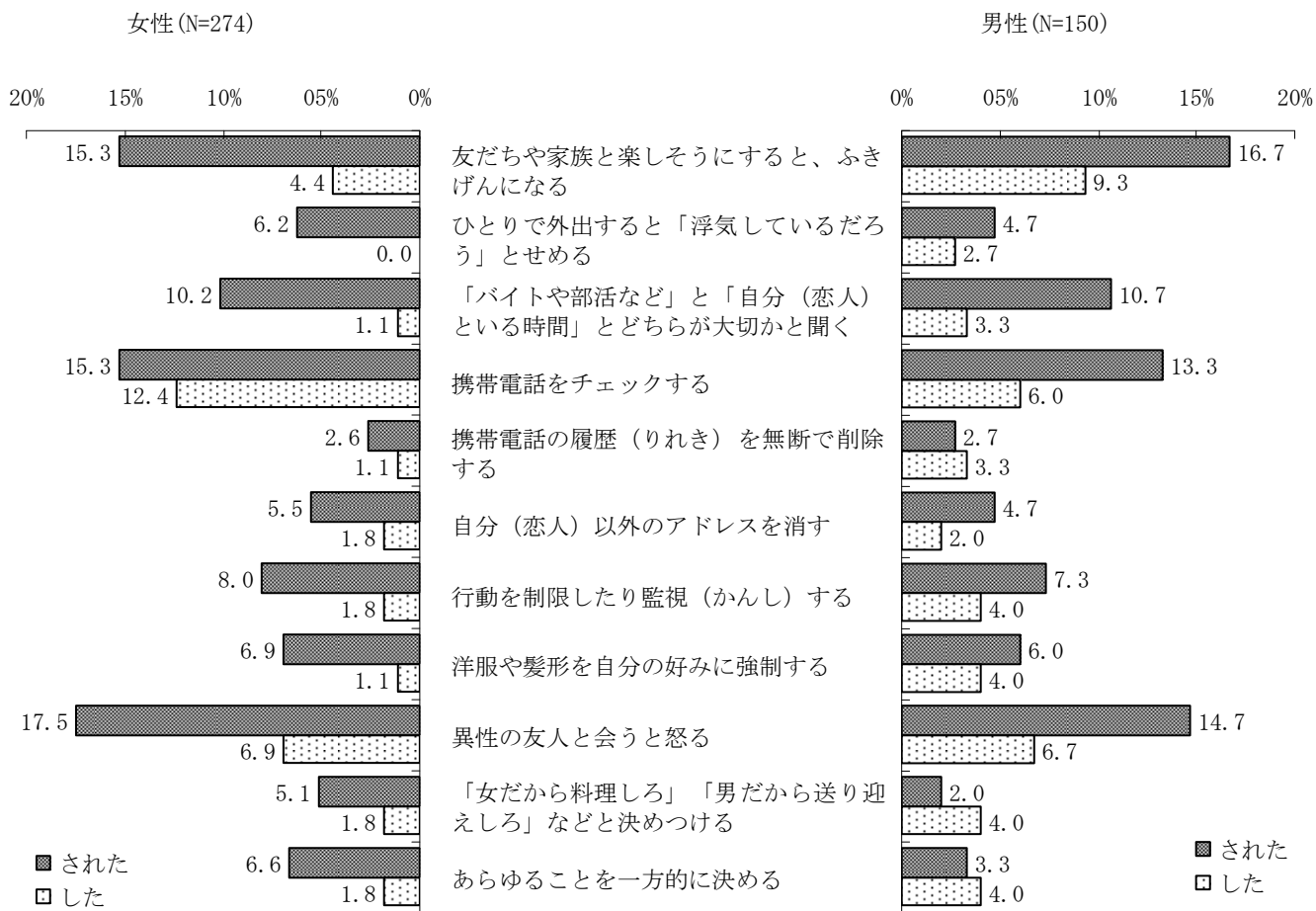
精神的なことで、交際相手からされたことがあるものについてたずねたところ、女性は[無視する]が17.5%で最も高く、次いで、[携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る]が15.0%、さらに[大声でどなる][ブス・頭が悪いなどとバカにする][相手を見下して人格を否定するようなことを言う]が1割前後で続いている。

男性では[携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る]が最も高く16.7%、次いで、[無視する]が10.7%となっている。

男女で比較すると、[無視する][大声でどなる][ことあるごとに説教する]ことを「された」割合は、女性が男性を5ポイント以上上回っている。

したことがあるものについては、男女ともに[無視する]が最も高く女性17.2%・男性15.3%、次いで、[大声でどなる]が女性6.2%・男性9.3%で続いている。

図4-5 社会的なこと



■ [異性の友人と会うと怒る][携帯電話をチェックする][友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる]ことを「された」割合が男女ともに高い

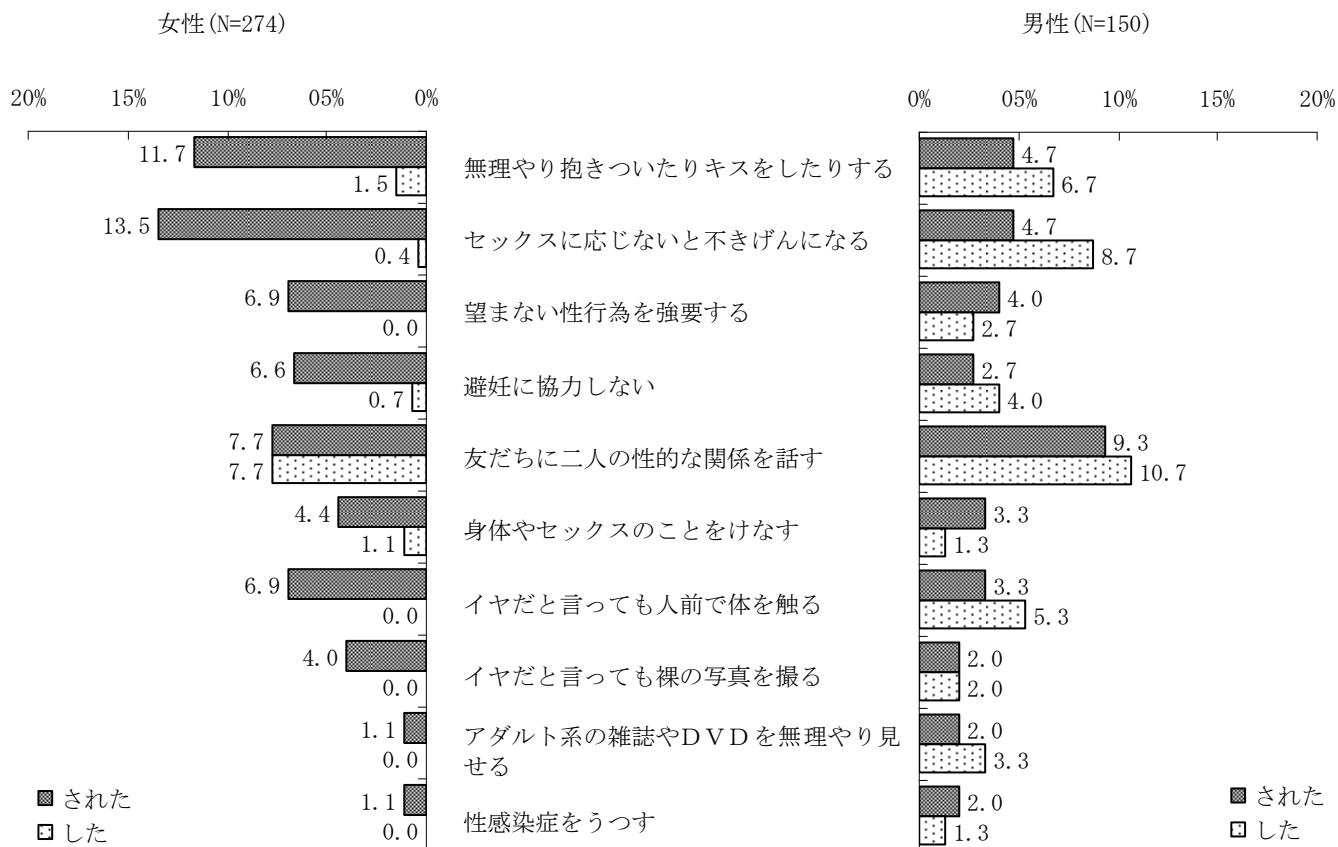
社会的なことで、交際相手からされたことがあるものについてたずねたところ、女性は[異性の友人と会うと怒る]が最も高く 17.5%、次いで、[友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる][携帯電話をチェックする]がともに 15.3%で続いている。

男性は、[友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる]が 16.7%で最も高く、次いで、[異性の友人と会うと怒る]14.7%、[携帯電話をチェックする]13.3%となっている。

したことがあるものについては、女性は[携帯電話をチェックする]が 12.4%で最も高く、男性は[友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる]が 9.3%で最も高い。

男女で比較すると、[携帯電話をチェックする]ことを「した」割合は、女性 12.4%・男性 6.0%で、女性が 6.4 ポイント上回り、[友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる]ことを「した」割合は、女性 4.4%・男性 9.3%で、男性が 4.9 ポイント上回っている。

図4-6 性的なこと



■ [セックスに応じないと不きげんになる] ことを「された」女性は13.5%

性的なことで、交際相手からされたことがあるものについてたずねたところ、女性では、[セックスに応じないと不きげんになる]が13.5%で最も高く、次いで、[無理やり抱きついたりキスをしたりする]の11.7%となっている。

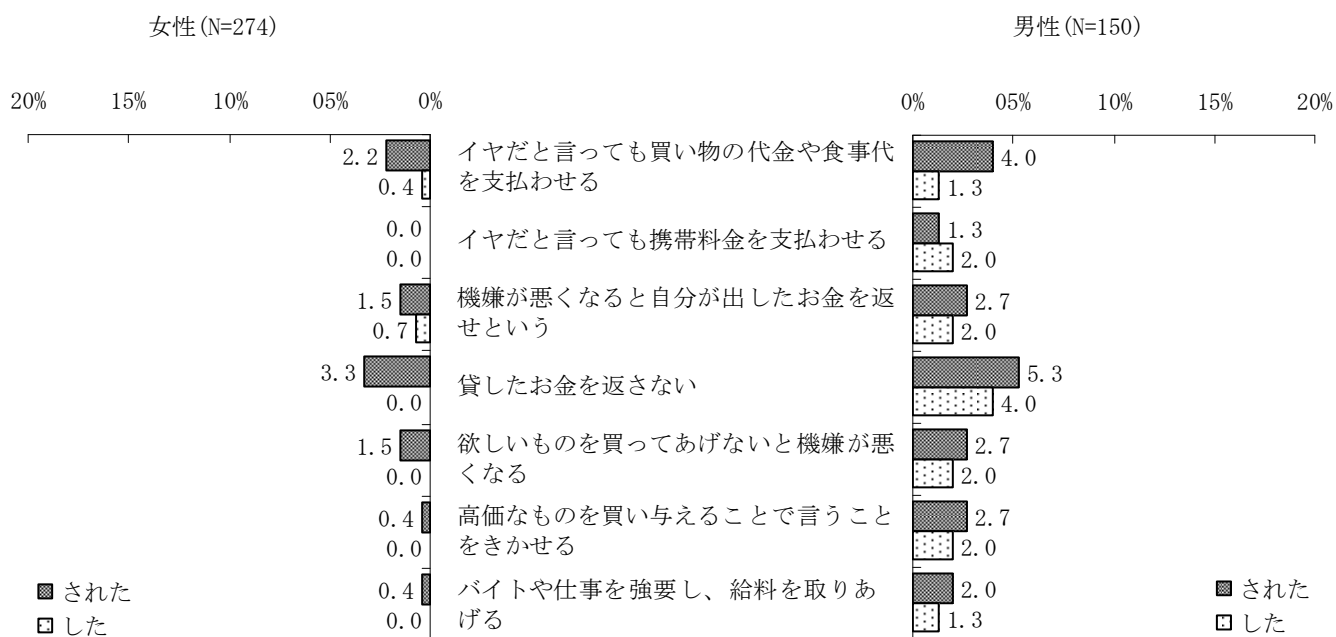
男性では、[友だちに二人の性的な関係を話す]が9.3%で最も高く、次いで、[無理やり抱きついたりキスをしたりする]が4.7%で続いている。

したことがあるものについては、[友だちに二人の性的な関係を話す]が女性7.7%・男性10.7%で男女ともに最も高くなっている。

男女で比較すると、[セックスに応じないと不きげんになる]について、「された」割合は女性13.5%・男性4.7%で女性が8.8ポイント高く、逆に「した」割合は、女性0.4%・男性8.7%で男性が、8.3ポイント高くなっている。

また、[無理やり抱きついたりキスをしたりする]について、「された」割合は、女性11.7%・男性4.7%で女性が7.0ポイント高くなっている。

図4-7 経済的なこと



■ [貸したお金を返さない]の割合がやや高い

経済的なことで、交際相手からされたことがあるものについてたずねたところ、[貸したお金を返さない]が女性 3.3%・男性 5.3%で、男女ともに最も高く、次いで、[イヤだと言っても買い物の代金や食事代を支払わせる]が女性 2.2%・男性 4.0%で続いている。

したことがあるものについては、女性では[機嫌が悪くなると自分が出したお金を返せという]が 0.7%で、男性では[貸したお金を返さない]が 4.0%で、それぞれ最も高くなっている。

表4-1 DVの被害/加害の自覚別にみた実際の被害/加害行為の経験

A. 身体的なこと

	全体	殴ったりけったりする			髪の毛をつかんでひっぱる			階段から突き落とす			物を投げつけたり、ナイフを向けたりする			
		された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	
全体	289	8.7	7.3	87.2	2.8	2.1	95.5	1.0	0.0	99.0	2.1	1.4	96.5	
被害	女性『ある』	38	28.9	10.5	71.1	15.8	2.6	84.2	5.3	0.0	94.7	13.2	0.0	86.8
	女性『ない』	157	4.5	7.6	89.8	0.0	3.2	96.8	0.0	0.0	100.0	0.0	1.9	98.1
	男性『ある』	15	20.0	13.3	73.3	6.7	0.0	93.3	0.0	0.0	100.0	0.0	6.7	93.3
	男性『ない』	76	5.3	3.9	92.1	1.3	0.0	98.7	1.3	0.0	98.7	1.3	0.0	98.7
加害	女性『ある』	14	28.6	35.7	50.0	14.3	21.4	64.3	0.0	0.0	100.0	14.3	14.3	71.4
	女性『ない』	181	7.7	6.1	89.0	2.2	1.7	96.7	1.1	0.0	98.9	1.7	0.6	97.8
	男性『ある』	13	15.4	15.4	69.2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	7.7	92.3
	男性『ない』	78	6.4	3.8	92.3	2.6	0.0	97.4	1.3	0.0	98.7	1.3	0.0	98.7

	全体	正座させる			車から放り出す			壁をたたいたり、物をけったりする			殴るふりをする			
		された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	
全体	289	2.8	1.4	95.8	0.7	0.3	99.0	9.3	3.5	88.6	9.3	5.9	88.2	
被害	女性『ある』	38	13.2	0.0	86.8	2.6	0.0	97.4	39.5	5.3	60.5	39.5	13.2	60.5
	女性『ない』	157	1.3	2.5	96.2	0.0	0.6	99.4	6.4	2.5	92.4	6.4	5.1	91.1
	男性『ある』	15	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	6.7	0.0	93.3	0.0	0.0	100.0
	男性『ない』	76	1.3	0.0	98.7	1.3	0.0	98.7	1.3	3.9	94.7	2.6	3.9	94.7
加害	女性『ある』	14	7.1	14.3	78.6	7.1	0.0	92.9	50.0	21.4	50.0	50.0	50.0	35.7
	女性『ない』	181	3.3	1.1	95.6	0.0	0.6	99.4	9.9	1.7	89.0	9.9	3.3	89.0
	男性『ある』	13	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	男性『ない』	78	1.3	0.0	98.7	1.3	0.0	98.7	2.6	3.8	93.6	2.6	3.8	94.9

B. 精神的なこと

	全体	ブス・頭が悪いなどとバカにする			大声でどなる			無視する			相手を見下して人格を否定するようなことを言う			
		された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	
全体	289	10.0	5.9	87.5	10.7	7.3	85.8	16.6	15.2	74.0	7.6	3.1	90.3	
被害	女性『ある』	38	34.2	7.9	63.2	39.5	5.3	60.5	47.4	26.3	39.5	34.2	5.3	65.8
	女性『ない』	157	5.7	3.2	93.0	7.0	7.6	89.2	12.7	15.3	77.7	3.8	2.5	94.3
	男性『ある』	15	13.3	20.0	80.0	6.7	13.3	86.7	13.3	13.3	73.3	6.7	0.0	93.3
	男性『ない』	76	6.6	7.9	89.5	5.3	6.6	90.8	10.5	10.5	82.9	2.6	3.9	93.4
加害	女性『ある』	14	35.7	35.7	50.0	42.9	21.4	50.0	57.1	50.0	21.4	14.3	14.3	78.6
	女性『ない』	181	9.4	1.7	90.1	11.0	6.1	86.2	16.6	14.9	74.0	9.4	2.2	89.5
	男性『ある』	13	7.7	30.8	69.2	7.7	15.4	84.6	15.4	23.1	69.2	7.7	7.7	84.6
	男性『ない』	78	7.7	6.4	91.0	5.1	6.4	91.0	10.3	9.0	83.3	2.6	2.6	94.9

	全体	わざと大事にしているものをこわしたりなくしたりする			気に入らないとおまへのせいだとせめる			ことあるごとに説教する			携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る			
		された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	
全体	289	2.8	1.0	96.2	5.2	1.7	93.4	6.2	3.5	90.7	17.6	4.5	79.6	
被害	女性『ある』	38	7.9	0.0	92.1	21.1	5.3	73.7	28.9	2.6	71.1	50.0	7.9	47.4
	女性『ない』	157	1.3	1.3	97.5	1.9	1.3	96.8	3.2	3.8	93.0	10.8	4.5	86.0
	男性『ある』	15	6.7	0.0	93.3	13.3	6.7	86.7	0.0	0.0	100.0	40.0	0.0	60.0
	男性『ない』	76	2.6	1.3	96.1	2.6	0.0	97.4	2.6	3.9	93.4	11.8	3.9	85.5
加害	女性『ある』	14	0.0	0.0	100.0	14.3	0.0	85.7	21.4	14.3	64.3	35.7	21.4	50.0
	女性『ない』	181	2.8	1.1	96.1	5.0	2.2	92.8	7.2	2.8	90.6	17.1	3.9	80.7
	男性『ある』	13	7.7	0.0	92.3	15.4	7.7	84.6	0.0	0.0	100.0	30.8	0.0	69.2
	男性『ない』	78	2.6	1.3	96.2	2.6	0.0	97.4	2.6	3.8	93.6	14.1	3.8	83.3

	全体	「別れたら死ぬ」とおどす			
		された	した	無回答	
全体	289	9.0	1.0	90.7	
被害	女性『ある』	38	34.2	2.6	65.8
	女性『ない』	157	3.8	0.6	96.2
	男性『ある』	15	26.7	0.0	73.3
	男性『ない』	76	3.9	1.3	94.7
加害	女性『ある』	14	35.7	0.0	64.3
	女性『ない』	181	7.7	1.1	92.3
	男性『ある』	13	15.4	0.0	84.6
	男性『ない』	78	6.4	1.3	92.3

C. 社会的なこと

	全体	友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる			ひとりで外出すると「浮気しているだろう」とせめる			「バイトや部活など」と「自分(恋人)という時間」とどちらが大切かと聞く			携帯電話をチェックする			
		された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	
全体	289	18.3	5.5	78.9	5.2	0.7	94.1	11.1	1.7	87.2	17.0	10.4	78.9	
被害	女性『ある』	38	44.7	5.3	52.6	26.3	0.0	73.7	34.2	5.3	60.5	39.5	13.2	55.3
	女性『ない』	157	12.1	5.1	86.0	1.3	0.0	98.7	6.4	0.6	93.0	11.5	12.1	83.4
	男性『ある』	15	46.7	6.7	46.7	13.3	0.0	86.7	26.7	0.0	73.3	33.3	6.7	66.7
	男性『ない』	76	13.2	6.6	82.9	1.3	2.6	96.1	6.6	2.6	90.8	14.5	6.6	82.9
加害	女性『ある』	14	28.6	28.6	42.9	28.6	0.0	71.4	35.7	7.1	57.1	35.7	42.9	35.7
	女性『ない』	181	17.7	3.3	82.3	4.4	0.0	95.6	9.9	1.1	89.0	15.5	9.9	81.2
	男性『ある』	13	38.5	7.7	53.8	15.4	0.0	84.6	23.1	0.0	76.9	38.5	15.4	61.5
	男性『ない』	78	15.4	6.4	80.8	1.3	2.6	96.2	7.7	2.6	89.7	14.1	5.1	83.3

	全体	携帯電話の履歴を無断で削除する			自分(恋人)以外のアドレスを消す			行動を制限したり監視する			洋服や髪型を自分の好みに強制する			
		された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	
全体	289	2.4	1.4	96.5	5.5	2.1	93.4	9.3	2.8	89.3	7.6	2.1	90.7	
被害	女性『ある』	38	13.2	2.6	86.8	13.2	0.0	86.8	36.8	7.9	60.5	23.7	2.6	73.7
	女性『ない』	157	0.0	1.3	98.7	5.7	3.2	93.0	3.8	1.3	95.5	4.5	0.6	94.9
	男性『ある』	15	6.7	0.0	93.3	6.7	0.0	93.3	20.0	0.0	80.0	6.7	0.0	93.3
	男性『ない』	76	1.3	1.3	97.4	1.3	1.3	97.4	5.3	3.9	92.1	6.6	3.9	90.8
加害	女性『ある』	14	21.4	7.1	78.6	28.6	7.1	64.3	42.9	21.4	50.0	28.6	7.1	64.3
	女性『ない』	181	1.1	1.1	97.8	5.5	2.2	93.9	7.7	1.1	91.7	6.6	0.6	92.8
	男性『ある』	13	7.7	0.0	92.3	7.7	0.0	92.3	15.4	7.7	76.9	15.4	15.4	76.9
	男性『ない』	78	1.3	1.3	97.4	1.3	1.3	97.4	6.4	2.6	92.3	5.1	1.3	93.6

	全体	異性の友人と会うと怒る			「女だから料理しろ」「男だから送り迎えしろ」などと決めつける			あらゆることを一方的に決める			
		された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	
全体	289	19.7	7.6	77.9	4.2	2.8	93.4	6.9	2.8	91.7	
被害	女性『ある』	38	52.6	18.4	42.1	18.4	2.6	81.6	36.8	5.3	63.2
	女性『ない』	157	13.4	6.4	84.1	1.9	2.5	95.5	1.9	1.3	97.5
	男性『ある』	15	33.3	13.3	66.7	0.0	0.0	100.0	6.7	0.0	93.3
	男性『ない』	76	14.5	3.9	84.2	2.6	3.9	93.4	2.6	5.3	93.4
加害	女性『ある』	14	64.3	57.1	21.4	21.4	14.3	71.4	42.9	21.4	57.1
	女性『ない』	181	17.7	5.0	80.1	3.9	1.7	94.5	6.1	0.6	93.4
	男性『ある』	13	38.5	23.1	61.5	0.0	0.0	100.0	15.4	7.7	84.6
	男性『ない』	78	14.1	2.6	84.6	2.6	3.8	93.6	1.3	3.8	94.9

D. 性的なこと

	全体	無理やり抱きついたりキスしたりする			セックスに応じないと不きげんになる			望まない性行為を強要する			避妊に協力しない			
		された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	
全体	289	9.7	3.8	87.9	12.5	2.8	84.8	7.3	0.3	92.4	6.6	1.7	93.1	
被害	女性『ある』	38	36.8	2.6	63.2	39.5	0.0	60.5	34.2	0.0	65.8	15.8	2.6	84.2
	女性『ない』	157	7.0	1.3	92.4	12.1	0.6	87.3	3.8	0.0	96.2	6.4	0.6	93.6
	男性『ある』	15	0.0	13.3	86.7	0.0	13.3	86.7	0.0	0.0	100.0	6.7	6.7	93.3
	男性『ない』	76	3.9	7.9	90.8	2.6	6.6	90.8	2.6	1.3	96.1	2.6	2.6	96.1
加害	女性『ある』	14	50.0	7.1	50.0	50.0	7.1	42.9	28.6	0.0	71.4	14.3	7.1	85.7
	女性『ない』	181	9.9	1.1	89.5	14.9	0.0	85.1	8.3	0.0	91.7	7.7	0.6	92.3
	男性『ある』	13	7.7	23.1	76.9	0.0	23.1	76.9	0.0	7.7	92.3	15.4	15.4	84.6
	男性『ない』	78	2.6	6.4	92.3	2.6	5.1	92.3	2.6	0.0	97.4	1.3	1.3	97.4

	全体	友達に二人の性的な関係を話す			身体やセックスのことをけなす			イヤだと言っても人前で体を触る			イヤだと言っても裸の写真を撮る			
		された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	された	した	無回答	
全体	289	8.3	9.0	86.5	4.5	0.7	95.2	6.6	1.4	92.0	4.2	0.3	95.5	
被害	女性『ある』	38	23.7	13.2	71.1	21.1	2.6	78.9	34.2	0.0	65.8	21.1	0.0	78.9
	女性『ない』	157	2.5	6.4	92.4	1.9	0.6	97.5	1.9	0.0	98.1	1.9	0.0	98.1
	男性『ある』	15	20.0	6.7	80.0	0.0	0.0	100.0	6.7	13.3	80.0	0.0	6.7	93.3
	男性『ない』	76	10.5	11.8	84.2	2.6	0.0	97.4	2.6	2.6	94.7	1.3	0.0	98.7
加害	女性『ある』	14	35.7	28.6	57.1	21.4	14.3	71.4	28.6	0.0	71.4	0.0	0.0	100.0
	女性『ない』	181	4.4	6.1	90.6	4.4	0.0	95.6	6.6	0.0	93.4	6.1	0.0	93.9
	男性『ある』	13	7.7	7.7	92.3	0.0	0.0	100.0	7.7	15.4	76.9	0.0	7.7	92.3
	男性『ない』	78	12.8	11.5	82.1	2.6	0.0	97.4	2.6	2.6	94.9	1.3	0.0	98.7

	全体	アダルト系の雑誌やDVDを無理やり見せる			性感染症をうつす			
		された	した	無回答	された	した	無回答	
全体	289	1.4	0.7	97.9	1.4	0.0	98.6	
被害	女性『ある』	38	7.9	0.0	92.1	2.6	0.0	97.4
	女性『ない』	157	0.0	0.0	100.0	1.3	0.0	98.7
	男性『ある』	15	0.0	6.7	93.3	0.0	0.0	100.0
	男性『ない』	76	1.3	1.3	97.4	1.3	0.0	98.7
加害	女性『ある』	14	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	女性『ない』	181	1.7	0.0	98.3	1.7	0.0	98.3
	男性『ある』	13	0.0	7.7	92.3	0.0	0.0	100.0
	男性『ない』	78	1.3	1.3	97.4	1.3	0.0	98.7

E. 経済的なこと

	全体	イヤだと言っても 買い物の代金や食 事代を支払わせる			イヤだと言っても 携帯料金を支払わ せる			機嫌が悪くなると 自分が出したお金 を返せという			貸したお金を返さ ない			
		され た	した	無回 答	され た	した	無回 答	され た	した	無回 答	され た	した	無回 答	
全体	289	3.5	0.3	96.2	0.3	0.0	99.7	2.1	1.0	96.9	4.8	1.0	94.8	
被害	女性『ある』	38	13.2	0.0	86.8	0.0	0.0	100.0	10.5	2.6	86.8	18.4	0.0	81.6
	女性『ない』	157	0.6	0.6	98.7	0.0	0.0	100.0	0.0	0.6	99.4	1.3	0.0	98.7
	男性『ある』	15	6.7	0.0	93.3	0.0	0.0	100.0	6.7	0.0	93.3	6.7	6.7	93.3
	男性『ない』	76	3.9	0.0	96.1	1.3	0.0	98.7	1.3	1.3	97.4	5.3	2.6	93.4
加害	女性『ある』	14	14.3	0.0	85.7	0.0	0.0	100.0	7.1	0.0	92.9	7.1	0.0	92.9
	女性『ない』	181	2.2	0.6	97.2	0.0	0.0	100.0	1.7	1.1	97.2	4.4	0.0	95.6
	男性『ある』	13	7.7	0.0	92.3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	7.7	7.7	92.3
	男性『ない』	78	3.8	0.0	96.2	1.3	0.0	98.7	2.6	1.3	96.2	5.1	2.6	93.6

	全体	欲しいものを買っ てあげないと機嫌 が悪くなる			高価なものを買 与えることで言う ことをきかせる			バイトや仕事を強 要し、給料を取りあ げる			
		され た	した	無回 答	され た	した	無回 答	され た	した	無回 答	
全体	289	2.1	0.0	97.9	1.0	0.3	98.6	0.7	0.0	99.3	
被害	女性『ある』	38	7.9	0.0	92.1	2.6	0.0	97.4	2.6	0.0	97.4
	女性『ない』	157	0.6	0.0	99.4	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	男性『ある』	15	0.0	0.0	100.0	0.0	6.7	93.3	0.0	0.0	100.0
	男性『ない』	76	2.6	0.0	97.4	2.6	0.0	97.4	1.3	0.0	98.7
加害	女性『ある』	14	7.1	0.0	92.9	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	女性『ない』	181	1.7	0.0	98.3	0.6	0.0	99.4	0.6	0.0	99.4
	男性『ある』	13	0.0	0.0	100.0	0.0	7.7	92.3	0.0	0.0	100.0
	男性『ない』	78	2.6	0.0	97.4	2.6	0.0	97.4	1.3	0.0	98.7

A. 身体的なこと

被害経験が『ない』と回答していても「された」の割合が高いものは、[殴ったりけったりする]で女性 4.5%・男性 5.3%、[壁をたたいたり、物をけったりする]と[殴るふりをする]で女性が各 6.4%となっており、暴力を受けているにも関わらず、それがデートDVだと認識されていない。

加害経験が『ない』と回答した人の「した」の割合をみると、[殴ったりけったりする]で女性 6.1%・男性 3.8%、[殴るふりをする]で女性 3.3%・男性 3.8%とやや高い。

B. 精神的なこと

被害経験が『ない』と回答した人の「された」の割合をみると、[無視する]で女性 12.7%・男性 10.5%、[携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る]で女性 10.8%・男性 11.8%と1割を超えている。

加害経験が『ない』と回答した人の「した」の割合をみると、[無視する]で女性 14.9%、男性 9.0%、[大声でどなる]で女性 6.1%・男性 6.4%、[ブス・頭が悪いなどとバカにする]で男性 6.4%が高い。

精神的な暴力は、他の種類の暴力に比べて被害も加害も認識が薄い傾向がみられる。

C. 社会的なこと

被害経験が『ない』と回答した人の「された」の割合をみると、[異性の友人と会うと怒る]で女性 13.4%・男性 14.5%、[友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる]で女性 12.1%・男性 13.2%、[携帯電話をチェックする]で女性 11.5%・男性 14.5%となっており、他の種類の暴力に比べて被害の認識が薄い。

加害経験が『ない』と回答した人の「した」の割合をみると、[携帯電話をチェックする]で女性 9.9%、[友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる]では男性 6.4%とやや割合が高い。

D. 性的なこと

被害・加害経験の認識別にみると、[セックスに応じないと不きげんになる]において、被害経験が『ない』と回答した女性で「された」が 12.1%となっており、逆に加害経験が『ない』と回答した男性で「した」が 5.1%と性に関する誤った知識が見受けられる。

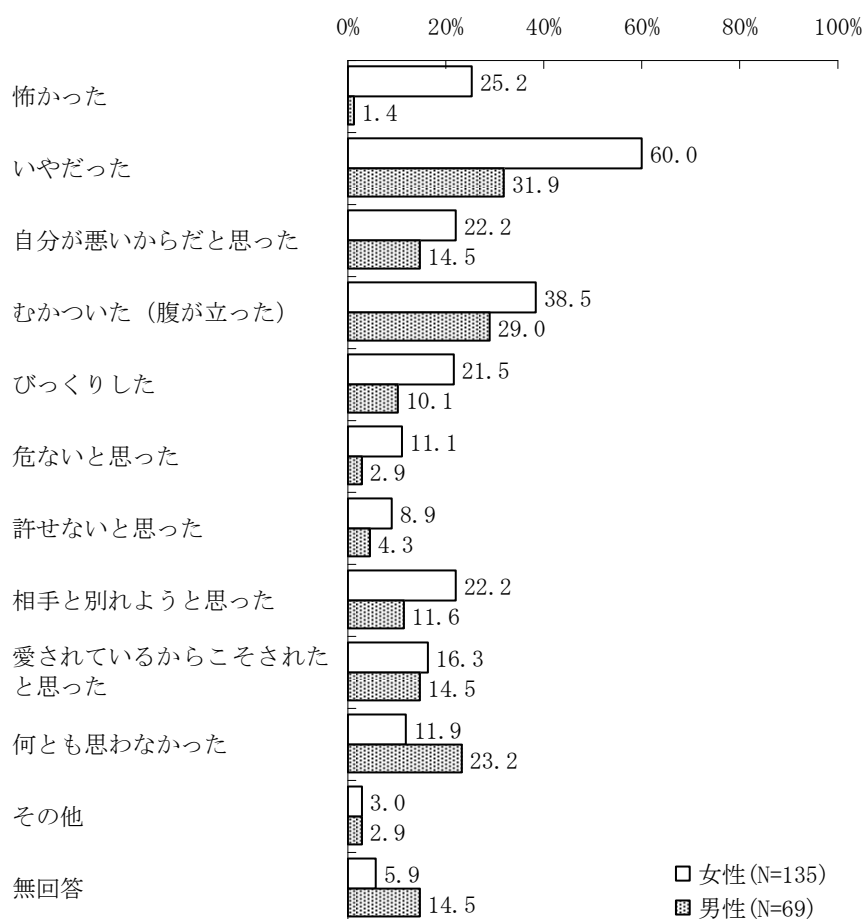
[友達に二人の性的な関係を話す]においては、男性の場合、被害経験が『ない』で「された」が 10.5%、加害経験が『ない』で「した」が 11.5%となっており、被害も加害も認識が薄い。

E. 経済的なこと

被害経験が『ない』と回答した人の「された」の割合をみると、[貸したお金を返さない]で男性が 5.3%とやや高い。

(4) (3)で「された」の項目に○をつけた人への質問です。別紙にあるような行為を受けた時、どのように思いましたか。(○はいくつでも)

図4-8 どのように思ったか



■ 6割の女性が「いやだった」と思っている

問3-(3)にあるような行為を受けた時にどのように思ったかをたずねたところ、男女ともに、「いやだった」が女性 60.0%・男性 31.9%で、最も高い。次いで、「むかついた (腹が立った)」が女性 38.5%・男性 29.0%で続いている。しかしながら、「愛されているからこそされたと思った」と暴力を肯定する考え方をする人が女性 16.3%、男性 14.5%と少なからずいる。

男女で比較すると、「いやだった」「怖かった」ではそれぞれ 28.1ポイント・23.8ポイント女性の方が男性よりも割合が高くなっている。また「びっくりした」「相手と別れようと思った」においても10ポイント以上、女性の割合が高くなっている。一方、「何とも思わなかった」については、男性が女性よりも11.3ポイント高くなっている。

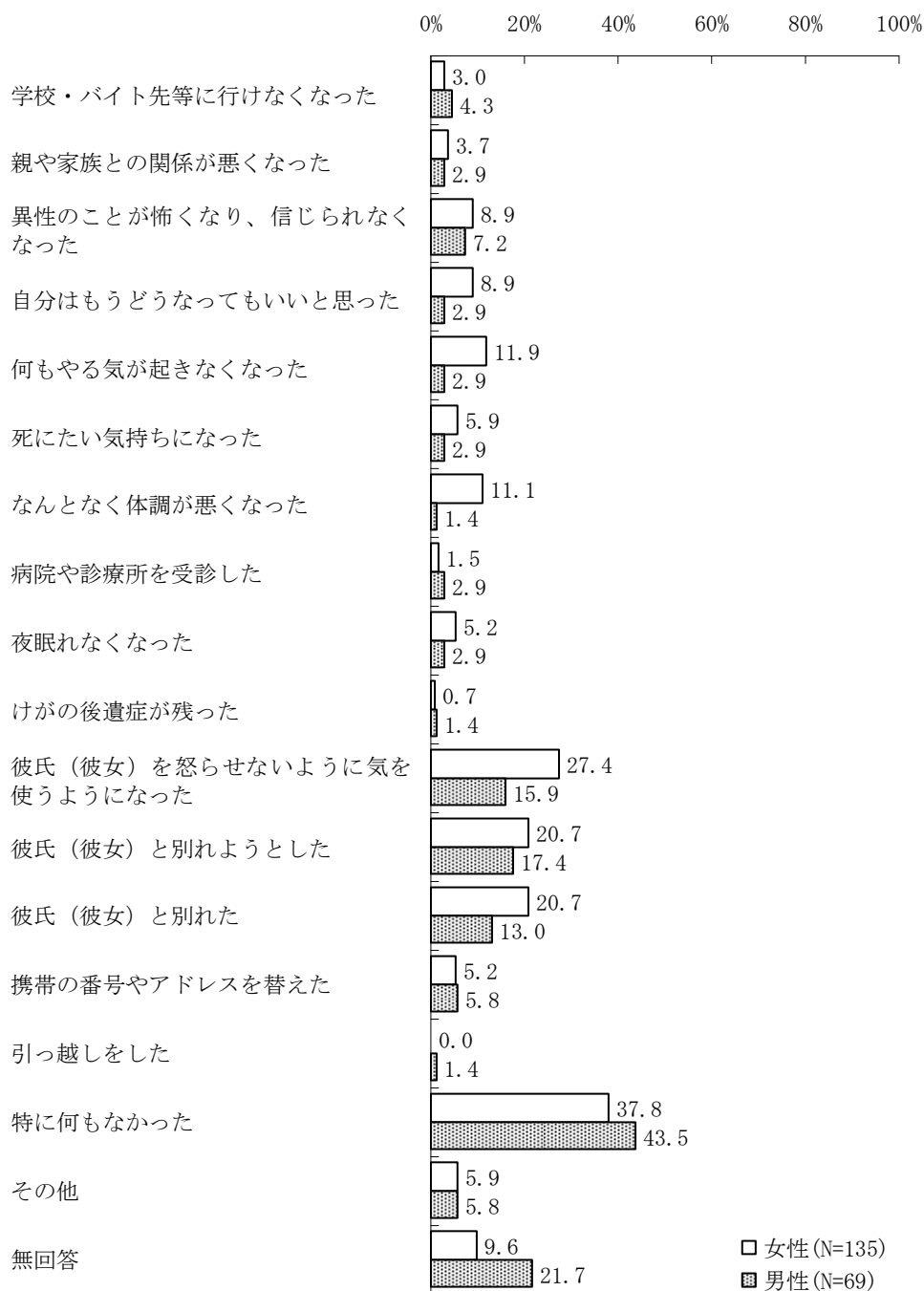
【デートDVの言葉の認知度別】

	全体	怖かった	いやだった	自分が悪いからだった	むかついた（腹が立った）	びっくりした	危ないと思った	許せないと思った	相手と別れようと思った	愛されているからこそされたと思った	何とも思わなかった	その他	無回答
全体	204	17.2	50.5	19.6	35.3	17.6	8.3	7.4	18.6	15.7	15.7	2.9	8.8
女性『聞いたことがある』	86	33.7	66.3	23.3	41.9	26.7	17.4	9.3	25.6	20.9	8.1	4.7	1.2
女性『聞いたことがない』	49	10.2	49.0	20.4	32.7	12.2	0.0	8.2	16.3	8.2	18.4	0.0	14.3
男性『聞いたことがある』	44	2.3	34.1	13.6	34.1	9.1	4.5	6.8	11.4	13.6	22.7	4.5	11.4
男性『聞いたことがない』	25	0.0	28.0	16.0	20.0	12.0	0.0	0.0	12.0	16.0	24.0	0.0	20.0

デートDVの言葉の認知度別にみると、女性で『聞いたことがある』は「いやだった」が66.3%、「怖かった」が33.7%となっており、『聞いたことがない』と比べて16ポイント以上の差が開いている。また、男女とも『聞いたことがない』では「危ないと思った」が0.0%となっており、危険だという認識が薄い。

(5) (3)にあるような行為を受けたことで、あなたはどうなりましたか。(〇はいくつでも)

図4-9 あなたがどうなったか



■ 「彼氏（彼女）を怒らせないように気を使うようになった」、「彼氏（彼女）と別れようとした」「彼氏（彼女）と別れた」が女性では2割を超える

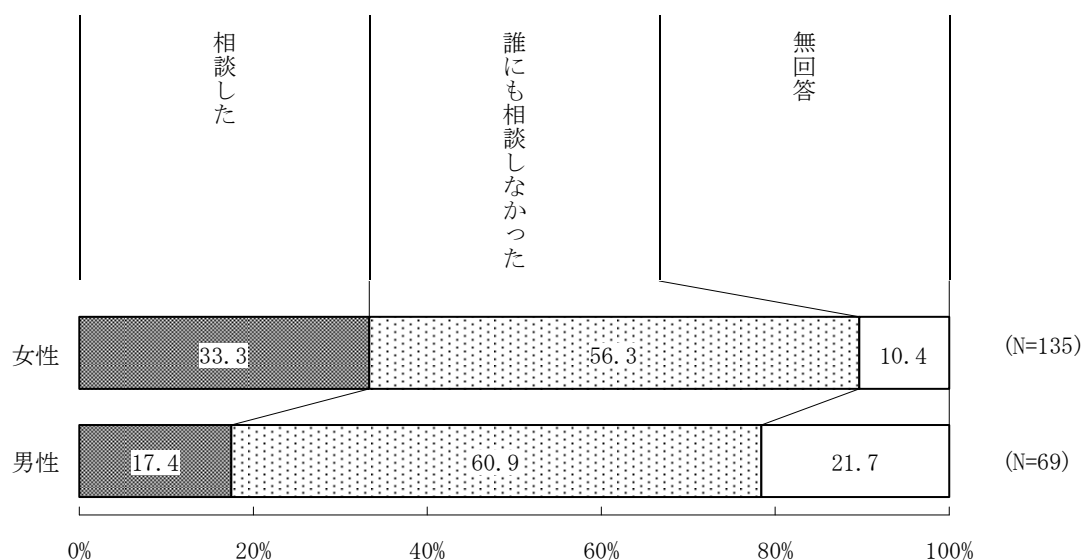
問3- (3)にあるような行為を受けたことでどうなったかをたずねたところ、「特に何もなかった」が男女ともに最も高く、女性37.8%・男性43.5%となっている。

女性では、次いで「彼氏（彼女）を怒らせないように気を使うようになった」27.4%、「彼氏（彼女）と別れようとした」20.7%、「彼氏（彼女）と別れた」20.7%が続き、男性では、「彼氏（彼女）と別れようとした」17.4%、「彼氏（彼女）を怒らせないように気を使うようになった」15.9%、「彼氏（彼女）と別れた」13.0%が続いている。

男女で比較すると、「彼氏（彼女）を怒らせないように気を使うようになった」「なんとなく体調が悪くなった」「何もやる気が起きなくなった」で、女性の割合が男性よりも高く、それぞれ 11.5 ポイント差、9.7 ポイント差、9.0 ポイント差となっている。

(6) (3) にあるような行為を受けた時、誰かに相談しましたか？

図 4-10 誰かに相談したかどうか

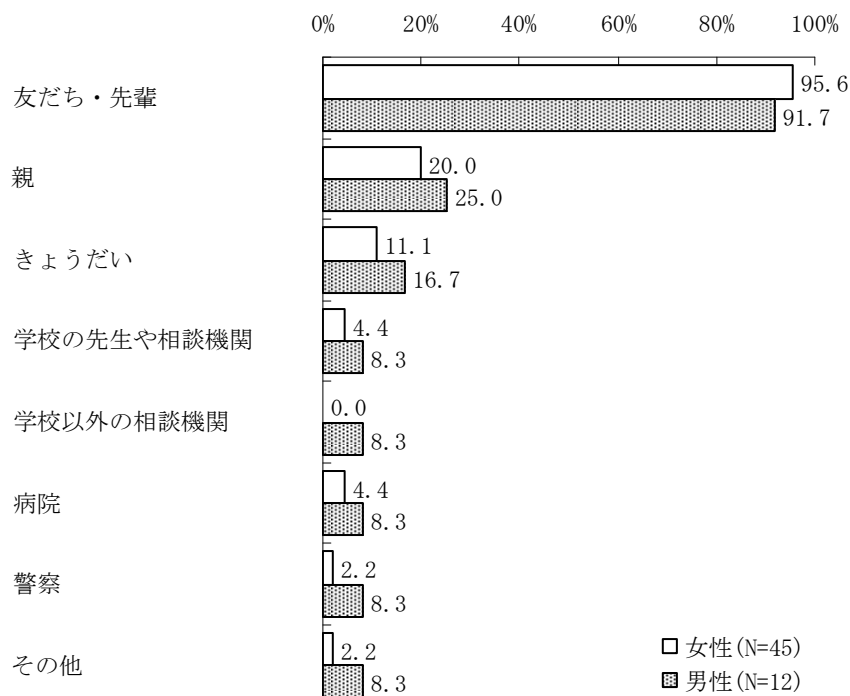


■女性の3人に1人は「相談した」と回答

問3-(3)にあるような行為を受けた時に誰かに相談したかをたずねたところ、「相談した」の割合は女性33.3%・男性17.4%であり、女性の方が「相談した」割合は15.9ポイント高くなっている。「誰にも相談しなかった」の割合は女性56.3%・男性60.9%となった。

(7) (6)で「①相談した」と答えた人への質問です。だれ(どこ)に相談しましたか? (〇はいくつでも)

図4-11 だれ(どこ)に相談したか

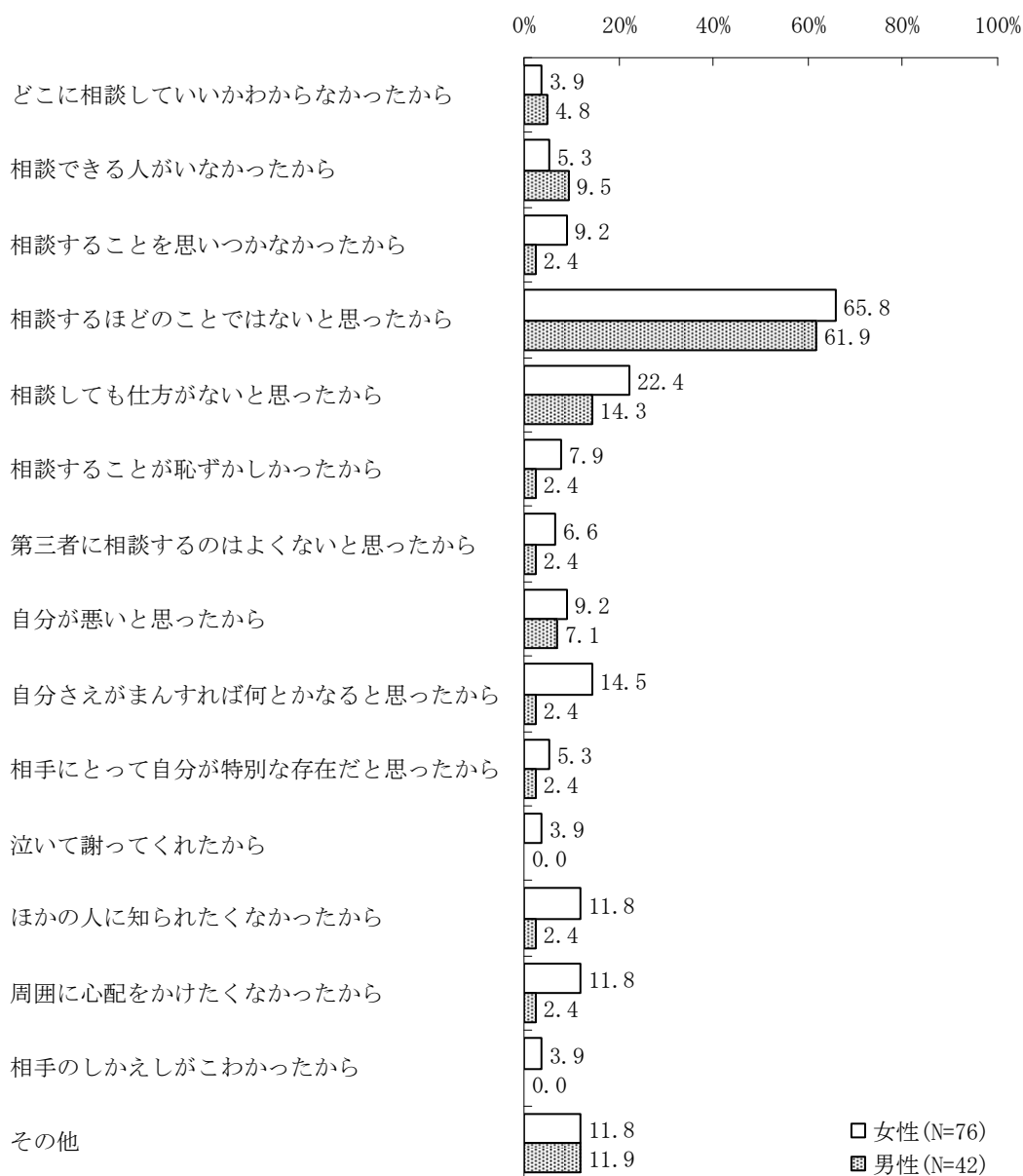


■相談相手は「友だち・先輩」が9割を超える

相談した相手についてたずねたところ、「友だち・先輩」の割合が、女性95.6%・男性91.7%と
 きわめて高くなっている。次いで、「親」が女性20.0%・男性25.0%、「きょうだい」が女性11.1%・
 男性16.7%で続き、相談機関などその他の選択肢は10%未満となっている。

(8) (6)で「②相談しなかった」と答えた人への質問です。相談しなかったのはどうしてですか？ (〇はいくつでも)

図4-12 相談しなかった理由



■「相談するほどのことではないと思ったから」が男女ともに最も高い

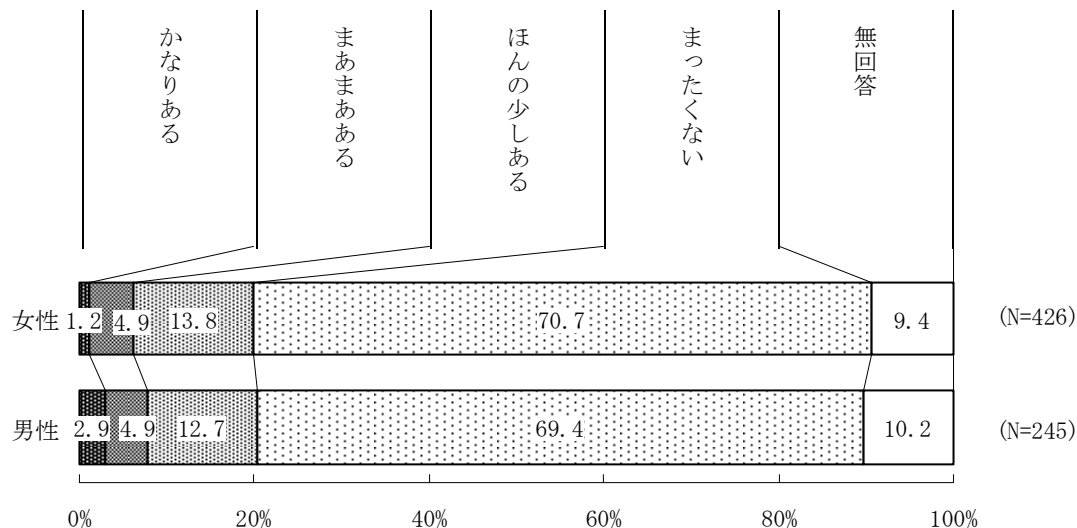
相談しなかった理由についてたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が女性 65.8%・男性 61.9%で、男女ともに6割を超えている。次いで「相談しても仕方がないと思ったから」が女性 22.4%・男性 14.3%で続いている。

女性では、ほかに「自分さえがまんすれば何とかかなと思ったから」「ほかの人に知られたくなかったから」「周囲に心配をかけたくなかったから」の項目で割合が1割を超えている。

問5 すべての人への質問

(1) あなたの家庭に暴力はありますか？（○はひとつ）

図5-1 家庭の暴力



■家庭の暴力は「まったくない」が約7割

家庭内で暴力が存在するかたずねたところ、「まったくない」が女性70.7%・男性69.4%で最も高い。『ある』（「かなりある」と「まあまあある」の合計）の割合は、女性6.1%・男性7.8%となり、男性では家庭で暴力が『ある』との割合が若干高くなっている。

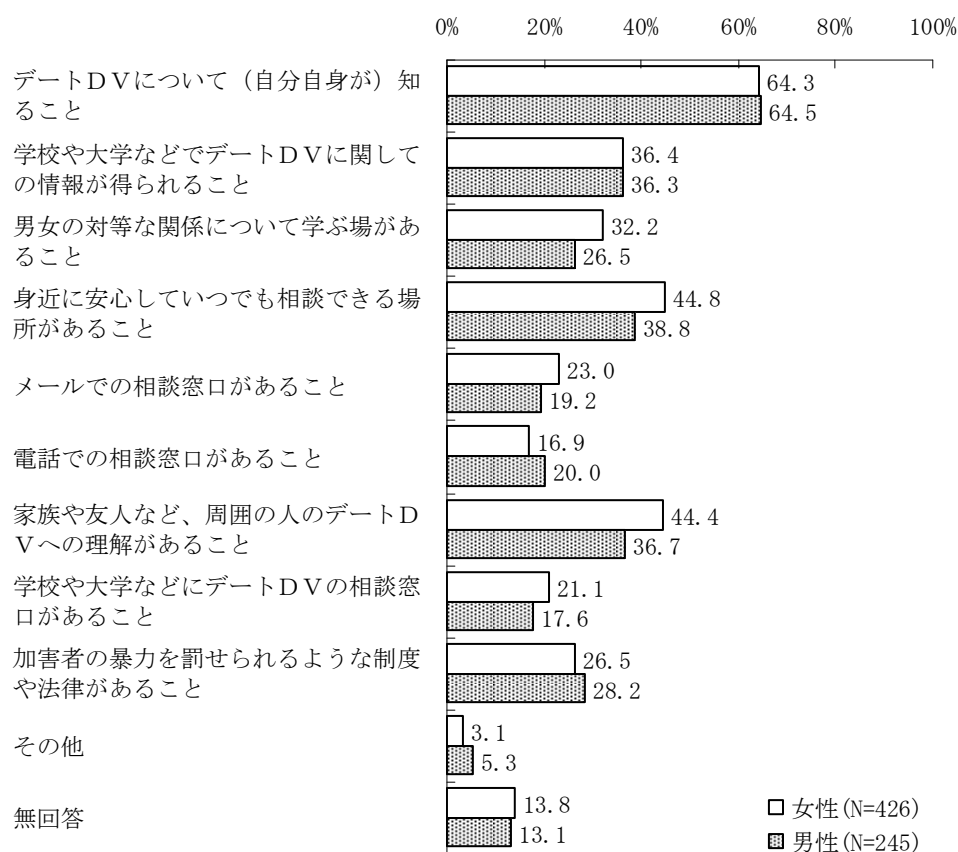
【自己肯定感別】

	全体	かなりある	まあまあある	ほんの少しある	まったくない	無回答
全体	672	1.8	4.9	13.4	70.2	9.7
女性『自分の事が好き』	262	0.8	4.6	12.6	72.9	9.2
女性『自分の事がきらい』	160	1.9	5.6	16.3	67.5	8.8
男性『自分の事が好き』	152	3.3	3.3	11.2	71.7	10.5
男性『自分の事がきらい』	90	2.2	7.8	15.6	64.4	10.0

自己肯定感別にみると、男性の『自分の事がきらい』では、家庭で暴力が『ある』との割合が10.0%とやや高い。

(2) デートDVをなくすためには、どうしたらよいと思いますか。あなたの考えを教えてください。(〇はいくつでも)

図5-2 デートDVをなくす方法



■「デートDVについて (自分自身が) 知ること」がトップ

デートDVをなくすための考えをたずねたところ、男女ともに「デートDVについて (自分自身が) 知ること」が女性 64.3%・男性 64.5%で最も高い。次いで「身近に安心していつでも相談できる場所があること」が女性 44.8%・男性 38.8%、「家族や友人など、周囲の人のデートDVへの理解があること」が女性 44.4%・男性 36.7%で続いている。

4. 自由記述のまとめ

全 78 件の回答内容は以下の通りであった（意見の詳細は抜粋している）。

●アンケート項目の内容について(35 件)	
これもDVなの？と思うことがいくつかあり、自分もいつDV加害者になるかわからないと思った。	女性 20 歳以上
自分の価値観を見直す良い機会になった。	男性 20 歳以上
人を傷つけることは基本的にきらいなのであてはまらない項目が多いと思った。	男性 20 歳以上
されたことに対して当てはまるが、全てがデートDVにつながるとは限らないグレーゾーンの選択肢が少なかったと思います。	女性 15～19 歳
もし彼女ができた時には、このアンケートのことを思い出して、大切にしたいと思った。	男性 15～19 歳
意外と自分がデートDV（軽く冗談でも）していることがわかったので反省します。	女性 15～19 歳
調査のためでも無神経な質問が多いと思います。	女性 20 歳以上
デートDVについては「名前は聞いたことがある」程度の予備知識で、このアンケートで初めてそういうものだったのかと驚いた部分が大いに存在することをまず述べておく。というのもあまり恋愛の経験がない私にとって、このアンケート内で挙げられた「暴力」の数々はおよそ考えられないものであったからだ。交際しているということは、相手を支配することなのだろうか？常識的に考えて、恋人は対等であるべきだろう。なかでも、別紙に記載されている具体的な「行為」などは、「折角好きでいてくれる恋人に何てことを」というのが率直な感想である。	男性 15～19 歳
問4では、DV「された」ことがある人へのみの質問で、どうして「した」ことがある人への質問がないのか疑問に思った。	女性 20 歳以上
まさか自分がデートDVされたなんて思わなかった。表を見て、これもDVの一種なのか！と驚かされました。	女性 15～19 歳
初めは自分がしたことやされたことがデートDVという感覚がなく、されたことが全くないと答えたが別紙アンケートに答えているうちに当てはまるものがパラパラと出てきて、私も少しは被害にあっているんだと思った。デートDVという感覚がないというのは怖いことだと感じた。	女性 20 歳以上
デートDVは男性と女性という形だけで限らないので、答える人のセクシュアリティという選択肢も必要だと思います。	男性 20 歳以上
別紙の「した」「された」の質問項目は全てデートDVにあてはまるのか気になりました。もしあてはまるのであれば、私はそうとは知らないでデートDVを受けていたことになるからです。さいわい、私には熱心に相談にのってくれる家族・友人がおり、のりこえることができました（家族に性的な相談はできませんでしたが、もし一人で悩んでいる人がいたら、とても辛いだろうな、と思いました）。	女性 15～19 歳
●啓発の必要性(16 件)	
こういった問題は被害を受けたから相談するといったようなすでに暴力が行われてから後の問題ではなく、中高生などが一番当てはまると思うので学校で教えるというような授業の一部分に異性との付き合い方などもしっかりと学ばせる事でデートDVなどを事前に防ぐようにしてほしい。	男性 20 歳以上
教科書的に駄目だ駄目だと言われてもなかなか直らないものだと思います。	女性 15～19 歳
DVについて多くの人が理解するようになれば、DV被害に苦しむ人が少なくなると思うので、このアンケート結果の統計が社会に何か影響を与えることができればいいと思いました。	女性 15～19 歳
様々なデートDVが顕在化してきているが、もっともっと社会のあり方について皆が考えていくべきであろうと思う。	男性 20 歳以上
私は今回大学の講義「ジェンダー論」でデートDVについて知り、学ぶことができました。デートDVをなくすためには、やはりもっと色々な人にデートDVとはどんなものなのか、誰にでも関わるものなんだと知ってもらうことが大切だと思います。中学校・高校・大学など早い段階でもっとデートDVについて取り上げた授業を扱ってもよいと思います。	女性 20 歳以上
デートDVといわれても、自分の知識が少ないと思った。具体的にどういうことがデートDVなのか、普通のDVとの違いが分かっていなかった。私は、デートDVをしたこともされたこともないが別紙の一覧を見て、友達から聞いたことがあることもあった。今回のアンケートでデートDVについてもっと知りたいと思った。	女性 15～19 歳

●暴力の根絶(11件)	
普通のけんかでもどなることがあるのでお互いに気をつけなきゃいけないと思いました。	女性 15～19 歳
このアンケートに答えた人の意見で何か一つでも、デートDV、DVの加害者、被害者ともに救える手立てがみつきり、救えるきっかけになればいいと思う。今後、デートDVが減少されることを願っています。	女性 15～19 歳
『加害者性』が何故発生するのかを問う設問があっても良いのでは。 例) 「男らしさ」にしばられている人はつらいと思う。	男性 20 歳以上
DVは主に男性から女性というイメージがある。女性が男性のいらだちのはけ口となってしまうのは本当に良くないと思った。また、愛するがゆえの暴力とは愛ではないと感じた。	女性 15～19 歳
デートDVをする人に当てはまるものは、「相手をモノとして扱う」ということだと思います。人として認識していないから、そんな非道なことを行えるのではないのでしょうか、わたしは現在はお付き合いというものをしてはいますが、相手はジェンダー的理解があるので、「女は〇〇するのがあたり前だ!」ということは全く言われませんし、逆に相手の弱いところをみせられたとしても、カッコ悪いなんて思いません。人として人を大切にすることが、何より大切だと思います。	女性 20 歳以上
●罰則が必要(3件)	
DVに対する厳罰が必要だと思う一方で、それを悪意をもって利用する人も増えるのではと思います。	男性 20 歳以上
ジェンダーについて再考する機会は増えたが、DVが減らない現状を鑑みるに、加害者に何らかの罰則を加える制度により被害者の実質的な救済につなげるべきだ。	男性 20 歳以上
●男性への配慮(2件)	
DVというと、男性→女性というイメージが世間で強いと思うが逆のケースも多々見られるようなので、男性被害者についての理解も深めるべきだと思う。	女性 20 歳以上
対等な関係というのはすごく難しいと思う。どちらかの立場が改善されると、改善された方はすごく立場が強くなってしまふ。例えば「女性」というだけで世の中ではクーポンや割引・サービスなど待遇を受けられるが、男性にはそんなものはない。男性の方が収入が多いという概念もあるが、実際には収入に差がつくのは社会人からであり、そもそも、女性の社会進出が進んでいるが本当に男性と女性の間にそんなに収入の差があるのでしょうか。生涯収入では確実に男性の方が上ですが、特に20代～30代の男性と女性の月別の平均収入にはそんなに差がないように感じます。このように、DVだけに限らず、男性にとって不公平なことも世の中にはたくさんあります。このようなことを男性は社会的地位が高く、収入があるからという理由(本当にそうなのかは分からない。一部の上級階層はそうだが、一般のサラリーマンに本当に当てはまっているのか?)だけで、社会的に容認してしまい、男性に不公平な立場をさせることもDVではないのでしょうか?ぜひ回答してもらいたいです。	男性 20 歳以上
●相談体制の充実(3件)	
友達でも昔、デートDVされてる子がいたけど相手の人のことも知らなかったので話をきくぐらいしかできなかったし、大げさにしたくなかったみたいだったがそういう時、どうすればいいのか知りたい。	女性 20 歳以上
・デートDVは、友人からの相談を受けることも、今までに2、3度ありました。身近に存在する問題だと、思います。 ・別紙一覧の選択肢を見て、例えば「ケータイをチェックする」などささいな事がデートDVに当たると、自覚しないうちにDVをしてしまっている場合が多いように思います。 ・親には相談しづらい問題だと思います。実際私も、問題が公になってからでした。もう少し、気軽に相談できる機関が必要だと思います。	女性 20 歳以上
●反対意見(3件)	
デートDVについて知ったところで数は減らないと思う。	女性 20 歳以上
ジェフリ教は嫌いです	男性 20 歳以上
●その他(4件)	

5. 調査結果からみた課題

京都市デートDVに関する実態調査の意義

神戸大学・立命館大学大学院非常勤教員

伊田 広行

1. はじめに

京都市デートDVに関する実態調査（以下、本調査と呼ぶ）は、大学生に限定され、かつジェンダー関係の授業を受けてデートDVについての学びをある程度受けた者が一部含まれているという偏りがあることを前提として理解しておくべき必要がある。つまり、これが高校生などを含む若者全体の平均的な意識とは言えない点に注意がいる。

しかし、にもかかわらず、デートDVの実態やデートDVにつながる意識がかなり浮き彫りになっており、また従来他の同種の調査にはない設問によって、新たに明らかになった点がかなりあるので、意義深い調査であるといえよう。以下、数点にわたって本調査が示すものを確認しておきたい。

2. 詳しい恋愛観が明らかになった

「彼氏・彼女がいないのはかっこ悪い」と思っている男性は30.2%

「問2 恋愛観・価値観について」では、従来ほとんど聞かれたことがない項目が調査対象となっており、それによって大学生の恋愛観・ジェンダー観が一定つかめる。

特徴的なものとしては、[1. 彼氏・彼女がいないのはかっこ悪い]という項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、特に男子が30.2%と高くなっており、恋愛への焦る気持ち、他者の視線意識、恋愛していないこと（リア充ではないこと）への劣等感、が浮かび上がる。

また[2. 付き合っている2人の間に、秘密や隠し事をしてはいけない]は男女とも約3割がそう思っており、この価値観が束縛、携帯チェックなどのDVに利用されることと思うと、やはりこうした面を正面から扱う教育の必要性が実感される。

同じくデートDVにつながりやすい恋愛観の項目で割合が相対的に高いのは、[4. 彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育する権利がある]（約3割）、[8. 暴力を振るわれる方にも問題があると思う]（男性36.3%、女性24.2%）、[9. 相手が同意しないのに別れるのは裏切りである]（男性26.9%、女性20.9%）、[11. 男性は弱音を吐くべきではない]（男性30.6%）、[12. 女は男に守られたい（守るべき）ものだ]（男性48.1%、女性52.1%）などである。[14. 子育て中は、女性は家庭にいるべきだ]という性役割意識も、男性46.5%、女性27.7%）と高い。

ただし、本調査ではこうした恋愛観が被害や加害をもたらしているという明確な結果は得られなかった。標本数が少なく、被害／加害経験の絶対数が少ないし、数値としても、はっきりと相関関係があると言えるほどではなかったが、一部、傾向を読みとれる部分もあった（P16のクロス集計）。たと

えば[4. 彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり教育する権利がある]という考えに賛成（そう思う＋どちらかといえばそう思う）の人は、加害体験ある女性では47%であったのに対し、加害体験がない女性は24.9%（男性では、56.3%と30.2%）であった。「説教してもよい」という恋愛観があると加害行為をしやすいと読むことができる。

同じく、[2. 女は男に守られたい（守るべき）ものだ]という考えに賛成の人は、被害体験ある女性では76.2%に上るのに、被害体験がない女性では46.9%と低かった。被害女性に比べて加害女性の方がこの考えに賛成の人も多かった。「女は男に守られたいものだ」と思っていると被害にあいやすい、加害をしやすいと読みとれる。[3. 彼氏・彼女を束縛（行動チェックや人間関係の制限など）してもかまわない]という考えに賛成の人は、被害体験ある女性では21.4%であったが、被害体験がない女性では6.6%にすぎなかった。束縛容認の人ほど被害を受けやすいと言える。「性関係を持った相手は自分のもの」と思っている女性は被害にあいやすいとか、「暴力をふるわれる方にも問題がある」と思う男性の場合、加害しやすい傾向もあった。

しかし、他のクロス集計ではそうした関連性を十分には言えない項目も多いので、今後、もっと恋愛観とDV被害／加害の関係をつかむ調査が必要と言える。

他方、[3. 彼氏・彼女を束縛（行動チェックや人間関係の制限など）してもかまわない][5. 女性が嫌がっても、恋人ならセックスしてもかまわないと思う][6. 性関係を持ったら、相手は自分のものだと思う][7. 嫉妬からの暴力は、愛している（愛されている）証拠だ][10. 多少の暴力は男らしさだと思う]というような、明確に束縛とか暴力という言葉で聞くと数値が低くなる傾向があった。他のDVにつながる内容のところでは高くなっていることと併せて考えると、一般論としてはDVはだめと思っているが、しかし、無意識のうちにデートDV容認的な意識を持っているということが浮かび上がったと言える。

3. デートDV被害／加害の実態

被害／加害の自覚はないが、実際には経験している

本調査では、「問3 デートDVについて」－（4）（5）でデートDV被害、加害をつかんでいるが、これは他の調査と同じ程度の割合で、被害が「ある」「少しある」が女性で13.9%、男性で11.9%、加害が女性5.6%、男性11.2%となっている。身近でデートDVを見聞きしている人（問3「デートDVについて」－（3））は、「よくある」「少しある」を合わせると4割程度となっており、かなり多く見受けられることが分かった。

DV行為を受けてどうなったかという質問（「問4 交際相手との関係について」－（5））では、「彼氏（彼女）を怒らせないように気を使うようになった」が女性で27.4%、男性で15.9%あり、そのこと自体がDV状態の継続である。

相手を怒らせないように気を使うということは、直近には殴られたり怒られたりしていなくとも、ずっと生活の中で相手の支配を受けているということであり、それは、被害者の安全や自由や成長が奪われているということである。デートDV防止教育で、直接怒られている時でなくとも、相手の機嫌を伺い、怒らせないようにしている関係（許可を取る関係、相手が望むことしかしない関係）自体がDVであると伝えることが重要である。（こうしたDVの把握については、『ストップ！ デートD

V——防止のための恋愛基礎レッスン』を参照していただきたい。)

本調査では、具体的に「次のようなことをしたこと、されたことがあるか」と問4-(3)で47項目において別紙で細かく尋ねる調査もしており（これは大分県の『えばの会』調査の優れた点を引き継いだものである）、この結果とクロスさせると、主観的にはデートDV被害を体験していないと答えている者の中にも一定、被害体験が出てくる。同じく加害をしていないと自覚している者も、加害行為的なことをしている。

たとえば、被害経験がないと答えている女性のうち、12.1%が[友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる]で「されたことがある」と答えている。男性も被害経験がないと言っているのに15.4%がされたと答えている。[異性の友人と会うと怒る]の項目でも、被害がないと言っていた女性の13.4%、男性の14.5%が被害を受けていた。

加害体験でも同様のギャップがある。加害体験がないと言っていた男性の11.5%が[友達に二人の性的な関係を話したことがある]と、また6.4%が[無理やり抱きついたりキスしたことがある]と答えている。加害体験がないと答えていた男性の9.0%、女性の14.9%が[無視する]ということをしたことがあるとしていた。

したがって、本調査では、デートDV被害/加害の自覚が実際のDV言動よりも低いことも明らかになった。これは、ジェンダー関係の授業を受けた者がいる調査であることも考慮すると、デートDVはよほど正しくしっかり学ばないと、自覚なく加害をしてしまったり、被害にあったりしてしまうということを示唆していると言えよう。

その他の点についても詳しくは本調査報告の該当部分を見ていただくしかないが、注目すべき点をいくつか記しておく。

まず、問4-(3)の47の具体項目で「された」という被害経験と「した」という加害経験の両方がかなり高い項目(被害が15%以上)があり、それは若者に広くみられるデートDV事例と言える。それは例えば、[無視する][異性の友人と会うと怒る][携帯電話をチェックする]などである。こうした項目は、恋愛観に絡まっており、常識的(と考えられている)恋愛の考え方がデートDVにつながることを確認する必要性を思い起こさせる。

次に、「された」という被害経験は高いが、「した」という加害経験が低くギャップが大きい項目についてである。これは、被害がしばしばあるのに、DV加害行為をやっている方は、特にそれを意識していない(悪いこと、DVと思っていない)という特徴があるものと言える。それは例えば、[壁をたたいたり、物をけったりする]で、されたと思っている人が9.3%であるのに対して、したと思っている人は3.5%に過ぎないなど、「された」方は怖いと感じているのに、「した」方は直接殴っていないし怪我也させていないと軽く見る傾向がある項目と言えるだろう。

ここには男女差が顕著にみられる。精神的なDVは男女とも被害が多いが、身体暴力で特に恐怖を感じさせるものは、やはり女性に被害が多い点をおさえておく必要がある。この問題は[殴るふりをする]の項目でも同じことが言える。

[携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒る]も、被害はかなり多い(17.6%)のに加害(4.5%)は相対的に少なく、ギャップが大きい。[友だちや家族と楽しそうにすると、ふきげんになる]は、被害18.3%、加害5.5%、[バイトや部活など]と「自分(恋人)といる時間」とどちらが大切かと聞

く]は、被害 11.1%、加害 1.7%、[「別れたら死ぬ」とおどす]は被害 9.0%、加害 1.0%、[セックスに応じないと不機嫌になる]は被害が 12.5%、加害が 2.8%である。これらも恋愛観がらみであり、恋愛観自体がデートDV容認につながっていることを示唆している。

その他、1割近いというような、そこそこ数値が高い項目も、このような形でデートDVがあるとわかるので要注目である。それは、[殴ったりけったりする][相手を見下して人格を否定するようなことを言う][ブス・頭が悪いなどとバカにする][大声でどなる][ことあるごとに説教する][ひとりで外出すると「浮気しているだろう」とせめる][行動を制限したり監視する][無理やり抱きついたりキスする][友だちに二人の性的な関係を話す]などである。

なお、本調査では、経済的なDVはどちらかというと男性の被害が多いが、全体として数値が低いことも明らかになった。

4. 全体の傾向

デートDV行為を受けて「怖かった」と答えた女性は 25.2%

本調査では、精神的DV、社会的DVが特に多いことが確認された。いちおう「精神的」と「社会的」を分けているが、すべての項目で精神的暴力は同時に含んでいるのであり、この区分は本質的ではない。むしろ、恋愛観として相手の自由を奪い、自分のもののように扱い、干渉したり束縛してもいいのだという意識があるからこそ、それに絡むDV行為を行っているともみなすことができる。

性的なことも併せて、デートDVにつながる歪んだ恋愛観が推測できる項目（数値が高い項目）を合わせれば、たえず携帯電話やメールで相手を監視し、すぐに返事しないと怒る感情を持ち、恋人が他の人（特に異性）と仲良くすると怒り、怒りの方法として無視したり不機嫌になったり、ときには壁をたたいたり大声を出し、暴力的恐怖感を与えているということが浮かび上がる。行動を制限し、バイトや部活よりも自分を大事にすべきと思い、セックスには応じるべきと思い、気に食わないと説教し、別れるなら死ぬと言って脅している。無理やり抱きついたりキスしたりしてもかまわないと思っており、友人に二人の性的なことも簡単に話してしまっている。

また今回の調査では多くの項目で女性も加害的な行為をしていること、男性も被害を受けていることが浮き彫りになっている。たとえば[殴ったりけったりされたことがある]（被害）は男性で 8.7%、女性で 9.5%、[殴ったりけったりしたことがある]（加害）は男性で 5.3%、女性で 9.1%である。

ただしこの評価には注意がいる。怖さがあつて程度がひどいものと、怖さがあまりなく「うざいなあ」と思う程度のものではその意味がかなり違うが、本調査ではその区分を浮き彫りにする質問が十分ではなかった。「問4 交際相手との関係について」－（4）（行為を受けて）どう思ったかで、「怖かった」と答えた女性は 25.2%もあつたのに、男性は 1.4%に過ぎなかったので、ここから男性が受けている被害の「軽さ」を推測することはできる。「いやだった」も女性が 60.0%であるのに、男性が 31.9%であるのも、被害の程度を反映していると言えるだろう。

また「問4 交際相手との関係について」－（3）「したことがある されたことがある」行為では、身体的なDVで、[壁をたたいたり、物をけったりする][殴るふりをする]は男女で被害に有意な

差があった。これは上述したように、男性は怪我をさせていないからたいしたことではないとみなしやすいが、客観的には「この人は何をやるかわからない」という恐怖感を女性に与えるので、かなり程度のひどい暴力行為であるといえる。この点ではジェンダー差があることはおさえておくべき点である。

その他の項目を見ても、女性の加害意識の比率が意外に高く、男性が低いことが多い。対象者が少ないという限界もあるだろうが、女性の方が敏感に被害も加害も意識しているという面もあるのではないだろうか。言いかえれば、男性は、加害行為をしているのにその自覚が低いという傾向があると類推できる。

男女双方が加害行為をしていたり、被害を受けているからといって、「どっちもどっち、お互い対等にやり合っている」とみるのは間違いだろう。平均で見れば被害も加害も双方にあるが、同じカップル内でお互いがDV加害をし、被害も受けあっているとは言えないからである。そういうカップルも一部にあるだろうが、実際の事例を知れば多くは被害者は一方的にしんどくなって支配されている。殴られるようなケースや別れてくれなくて苦しむケース、友人関係などに支障が出ているケース、心身の病気になるほどのひどいケースが実際に数多くある。したがって「若者の恋愛は結婚と違って、軽いDVでしかなく、軽くけんかしている程度のものなのだ」と、本調査結果を「解釈」するのは間違いである。

今後の調査では、こうしたDV被害の程度に関する諸点をもっと浮き彫りにする質問が必要であろう。

男女で被害や加害が同じように多いという面もあるが、男女で差がある面も見落としはならない。特に、性的なDV項目では、予想通りかなり男性の加害が目立っている。たとえば、[無理やり抱きついたりキスしたりする]や[セックスに応じないと不機嫌になる][望まない性行為を強要する][イヤだといっても人前で体を触る、裸の写真を撮る]は被害が女性に大幅に偏っており、女性の加害は少なく、男性の加害が多い。しかし男性の加害意識は幾分低い。この点でも、恋愛におけるデートDVを、「恋愛だから軽いものだ、男女対等だろう」とみなすのは誤りであるといえることができる。

5. 男性被害

「携帯やメールにすぐ返事をしないと怒られる」経験を持つ男性は16.7%

なお、上記の点を確認した上でなら、女性も加害を行うということの意味を見逃すべきではないということを強調しておきたい。本調査で恋愛観がらみで、男女ともデートDVにつながる意識を保持していることが明らかになっているのであるから、女性が加害行為をするのは（その相手に恐怖感を与える程度は別にして）ある意味当然である。DVを単純にジェンダーの問題だとして男性が加害者、女性が被害者と決めつけるのは、事実を見ていない歪んだ把握という面がある。

たとえば、デートDV防止教育を受けた後に自分の体験を書いた男子学生の被害体験は、男性の被害実態をリアルに伝えてくれる。ここではその典型例を紹介しておく（複数事例の組み合わせ）。

【事例】

毎日、電話とメールですぐに返事しないと怒られるので、いつも気を使っていた。自分のプライベートな時間がなくなるくらいで、友達とも遊ばなくなった。10分以内に返事しないとだめなので、彼女が寝るまでは安心できない生活になっていた。彼女から夜どおしメールがきていて、朝起きると着信が何十通も来ていた。最初は付き合った女性を絶対的に守らないといけないと思っていたし、愛情が強いからだとか、さびしいのかなと思っていたが、次第にしんどくなっていった。そんなに電話ばかりしてられないと彼女に言うと、「私のことより大事なことがあるの」と泣かれて、恋愛経験が少ない自分は、そうして泣かれたり、すがつてこられると、自分が悪かったと思い、彼女の言うとおりにせざるを得なかった。何度も別れようと思ったが、相手から「どうして別れないといけないの？私は好きなのに」「別れるなら死ぬ」と言われて、別れられなかった。

6. その他、注目しておくべき点

恋愛観とDVとの関連性、暴力の程度を見極める調査を

本調査では、[自分のことが好きですか]という質問（問1-（3））に対して「あまり好きではない」+「嫌い」で男女とも4割弱とかなり高いこともわかった。自己肯定感の低さが、デートDV被害/加害につながりやすいという可能性があるので注目しておくべきであろう。

性についての情報（問1-（4））は、男性の方が活発で、友人先輩以外に、インターネット（携帯）、テレビ、DVD、雑誌等のメディアがやはり高かった。ここでのセックス情報、恋愛情報には問題があるものが多いので、この点でのリテラシー力を高める教育の必要性が考えられる。なお、女性では男性に比べて、性情報を交際相手から得ている者が多かった。これについては、恋人からの影響を受けて、コントロールされやすい危険性もあると推測できる。

交際経験率（問4-（1））が本調査では6割強とでたが、逆に言うと、大学生の時点で交際経験がない人も多い（男性22.9%、女性19.5%および無回答）こと、および今、恋人がいない人も多いことも忘れてはならない。『出生動向基本調査』の中の『第14回（2010年）独身者調査』（2011年12月発表）では、「交際している異性はいない」と回答した未婚者が、男性61.4%、女性49.5%であった。また、同調査では交際相手をもたず、かつ交際を望んでいない未婚者は、男性では全体の27.6%、女性では22.6%を占めていた。

こうした中で、まるで皆がいつも恋愛しているかのような言説をふりまくこと自体が、「恋愛なくっちゃ駄目だ」という焦りを強化し、「相手から少しデートDV的なことをされても我慢する」ということにもつながりかねないので、デートDV防止教育においても、恋愛経験がない人、現在恋人がいない人がいることを意識し、恋愛を焦らさない配慮が求められる。

なお、デートDV行為をされた時にどう思ったか（問4-（4））という質問に対して、「愛されているからこそされたと思った」という回答が女性で16.3%、男性で14.5%、「自分が悪いからだと思った」が女性で22.2%、男性で14.5%もあった。問2の[7.嫉妬からの暴力は愛している（愛されている）証拠だ]では「そう思う」ものが少ないことと矛盾しているが、一般論では「暴力」と言わ

れると否定的に答えるが、自分が実際にされたことを思い返した時の自分の実感では「愛情ゆえだ」「自分が悪いから仕方ない」と思っているということであろう。これは実際の体験談でも、当初は強い束縛や監視でも愛情とおもって嫌じゃなかったという声が多いことと符合する。

この点でもやはり、恋愛観自体を問い直すデートDV防止教育が必要であることが導かれる。

以上、本調査の意義や明らかになったことをまとめてみた。今後、高校生や社会人などより多くの若者を対象に調査をすること、暴力の程度を見極める項目を入れること（これは、私が『グレイゾーンの問題』として重要性を指摘している点である）、恋愛観とDVとの関連性、ジェンダーとDVとの関連性を見極める調査をすること、性的マイノリティを意識することなども課題となつてこよう。今後他の調査でも、本調査のような恋愛観を問う質問項目が加わることを期待して、本稿を終えたい。

【参考】

恋愛観とDVの関係性を問うことの重要性に関しては、伊田広行『デートDVと恋愛』（大月書店）を参照されたい。

デートDVに関する実態調査について（分析と意見）

NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ代表理事
正井 礼子

1. はじめに

若い世代における恋愛観の調査はこれまで少なく画期的なものと言える。本調査によって、若い世代におけるデートDVの背景に、誤った恋愛観（恋愛のルールとも言える）や男女ともにジェンダー意識（特に男性に根強い）があり、それが対等な人間関係を阻害していることに自ら気づくような教育がなされるべきであると考えます。

2. 性についての情報源について

情報源が男女ともに本や授業より、友人や先輩、テレビなどからが多い。特に男性は女性よりもDV・ビデオやインターネットを通して情報を得た割合がかなり高く、そこから誤った知識や対等でない性関係を学んだことが、性暴力に関して加害意識が低い要因となっていると思った。だからこそ、早期の性教育、デートDV防止教育の中で対等な性関係の大切さを伝える必要性を痛感した。

3. 恋愛観・価値観について

「問2 恋愛観・価値観について」－[1. 彼氏・彼女がいないのはかっこわるい]と思うのは女性よりも男性が多く、恋人の存在が男性の評価や証明につながるという意識がうかがえる。問2－[2][3][9]からは、二人だけの世界やお互いに相手を所有してよいといった誤った恋愛観を男女ともに持っていることがわかる。束縛については男性の方が16%、女性も11%が肯定している。このような考えが、恋愛関係において支配や暴力が継続する要因となっている。

問2から、[4. 彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育する権利がある]と思うのは男女ともに多く、カップルの間で対等や尊重の意識が低いことがわかる。[8. 暴力を振るわれる方にも問題があると思う]との考えに対し、女性の半分はそう思わないと明確に答えているが、男性は3割しか否定していない。DV加害者の特徴として暴力を被害者のせいにする傾向がある。暴力の責任は全て加害者にあることを教育する必要性を感じた。

[11. 男性は弱音を吐くべきでない]との価値観を男性の3割が肯定しているが、女性は1割程である。男性の方が女性よりジェンダー意識に縛られていることがわかる。[12. 女は守られたい（守るべき）ものだ]との設問に男女とも半数以上が肯定している。このような考え方が男女の対等で自立した関係の構築を妨げ、特に女性の主体性を阻む要因となっている。

[14][15]では、男女ともに社会が男女不平等だと認識していながら、子育て中は女性は家庭にいたべきとの設問に女性の3割弱、男性の半数近くが「そう思う」と回答している。日本では、第1子を産んだ後、女性の7割が仕事を辞めている。また、3歳児神話についても女性の7割が肯定しているという調査報告がある。性別役割意識の撤廃とともに、3歳児神話を払拭する教育も、男女平等社会の実現にとって重要課題である。

問2の設問全体を通して、男女ともに誤った恋愛のルールに縛られていること、若い世代であってもまだまだジェンダー意識が強いことなどがわかり、このような考え方がデートDVに繋がっていると感じた。

4. 暴力の「被害／加害」行為について

- 身体的なこと

加害については男女の差があまりなく、男性の回答を見ると女性の加害の方が上回っているが暴力の有無だけに着目するのではなく、暴力の内容や、暴力による影響がどのようであったかを知る必要がある。壁をたたく、殴るふりをするなどの行為は直接的暴力ではなくても、直接受けた暴力と同じぐらいの心理的恐怖を与えるものであり、男性の加害の方がかなり多い。

- 精神的なこと

精神的な暴力の中で、バカにしたり、大声でどなる、人格否定や、ことあるごとに説教するという行為は女性が男性より多く被害を受けている。大声でどなることは相手に恐怖を与え、人格否定なども親密な相手からだけに、自信を奪い被害者への支配を強化する行為である。

- 社会的なこと

束縛は男女ともに加害・被害がほぼ同数で、相手を所有物と考えるなど誤った恋愛観が背景にある。男女の性役割をおしつける行為や、あらゆることを一方的に決めるなどの行為からは、ジェンダー意識、性別役割意識の強さが背景にある。別れたら死ぬという行為は男女ともにあるが、これは脅迫という深刻な暴力なのだが、愛と勘違いして別れられない被害者はとても多い。加害者が殺すとか死ぬとか言う状況はリスクアセスメントの中でも、危険な状況とみなされており、正しい知識を伝えることは被害者支援に繋がる。

- 性的なこと

「性行為の強要や応じないと不機嫌になる」は、女性の被害が圧倒的に多い。性に関しては、問2-[5][6]によれば[5. 女性が嫌がっても、恋人ならセックスしてかまわない]と思う男性は4.4%、女性は0.7%と低いが[6. 性関係を持ったら、相手を自分のモノと思う]と思う男性は13.1%、女性も9.4%いる。それは前述のインターネットやDVD・ビデオからの刷り込みが大きいと考えられる。性関係のありようで、カップルの関係性が明らかになる。

5. 暴力の被害を受けてどう思ったか、どうなったか

「怖かった、危ないと思った、びっくりした」などは男女でかなりの差がある。そのほかの項目についても心身への影響は女性の方が深刻である。「何とも思わなかった」男性は女性の2倍である。

その後どうなったかについても、「やる気がなくなった、死にたい、体調が悪くなった、別れたり、相手を怒らせないように気を使った」などは女性の方が多い。

6. 相談について

男女ともに被害者の半分以上がさまざまな理由から相談していない。相談しているのは女性の33.3%、男性の17%である。大人に相談したらすぐに別れさせられると思っていたりする。相談相手は友人や先輩が9割である。デートDV（または暴力）防止教育によって、全ての生徒や学生がデートDVに関する正しい知識や理解を持つことが、被害者支援や将来のDV防止にもつながる。今回のアンケートでも、デートDVを防止するには、自分や周囲の人間が正しい知識や理解を持つことがデートDVをなくす方法だという回答が多い。

7. 暴力の「被害／加害」の自覚と実際の経験について

被害・加害ともに経験が『ない』と答えているにもかかわらず、具体的な項目についてたずねると、男女ともに実際は被害・加害行為の経験者は少なくない。

精神的暴力については加害意識が低く、社会的暴力については、加害・被害意識ともにさらに低くなっている。性的な暴力については、相手の望まない性行為が暴力であるという認識が男女ともに低い。性暴力の中でも、「無理にキスをされたり、セックスに応じないと不機嫌になる、望まない性行為を強要された」などの性暴力の被害は圧倒的に女性の方が多いことがわかる。女性のNOはYESであるといった刷り込みが中学生男子にも多く見られる現状があるため、早期に性教育を実施し、お互いの性的自己決定権の尊重や、合意でないSEXは性暴力であることなどを伝えることが急務である。

8. 最後に

今回の調査から、①多くの学生がデートDVについて正しい知識や理解を持っていない、特に何が暴力であるかを知らない。そのため被害・加害の自覚が低い。②男女ともに誤った恋愛観を刷り込まれており、誤った恋愛のルールに縛られている。③カップルの対等な関係、対等な性関係などを学ぶ機会が少ない。④男女ともにジェンダー意識や、性別役割意識を持っているが、男性の方がより強い傾向がある。⑤デートDVの被害の影響は女性により深刻である。知識がないために、暴力や束縛を愛されているからだと勘違いし、暴力がエスカレートしても別れられないなど深刻な状況が起きている。⑥性に関して男性が誤った情報や知識を刷り込まれている。ジェンダーの視点にもとづく性教育が若い世代に必要である。⑦被害者が誰にも相談できなかつたり、相談相手が友人や先輩など若い世代が圧倒的に多い、などが明らかになった。

以上から、学校に出向いてのジェンダーの視点に基づいたデートDV防止教育や性教育、対等でお互いを尊重する人間関係の大切さなどを全ての生徒に伝える必要性を痛感した。そのためには、事前に先生、特に人権教育担当者や養護教員を対象とした人権研修などにおいて、デートDV防止教育についての模擬授業を実施し、先生自身がデートDVについて正しい知識と理解を持てるようにして、生徒への授業内容を確認してもらうなど、指導する教員自身にも安心して受け入れてもらいやすくなる仕組みがあるとよいだろう。

全ての生徒や学生にデートDV防止授業を実施することで、被害者を支援するだけでなく、彼らが将来、対等なパートナーシップを築く力を育てる。彼らが地域社会からDVや児童虐待を根絶する大きな力になると期待している。

デートDVに関する実態調査を読んで

ウィメンズカウンセリング京都代表

井上 摩耶子

1. はじめに

フェミニストカウンセラーとして、多くのDV被害者のカウンセリングや法廷でのアドボケイト（代弁擁護）活動に取り組んできたが、深刻なデートDV被害者への関わりは多くない。本調査においても、学校以外の相談機関に相談した女性被害者はいない（P41）。しかし、全国的にみれば、「かなり深刻なデートDV被害者に対応する公的シェルターがない」などの問題提起もあるようだ。

本調査では、対象者が大学生ということもあり、DV被害を受けたことが「ある」と答えた女性は4.0%、男性3.5%にすぎない。これは、他のデートDV調査と比べても低い率だろう。だいたい男女間の対等性を考えるとき、女性にとっては、大学時代がどの時期よりも差別されず対等に扱われる時期のように思う。就職し、結婚したとたんに、男女の不平等関係が明白になる。また、中・高校生時代は、女性もまだあまりジェンダー平等意識に目覚めておらず、親世代の旧弊な「性別役割意識」などをもっているように思うからだ。

2. 「デートDV」という定義

以前から、「デートDV」という言葉の使用法に違和感があった。DVという言葉がついているので、配偶者間のDVを想像し、本調査においても、「身体的暴力」「精神的暴力」「社会的暴力」「性的暴力」「経済的暴力」について質問されているが、配偶者間のDVにおけるように、圧倒的に「男性から女性への暴力」という傾向はみられない。暴力の「身体的暴力」（図4-3）においては、暴力を受けた割合は女性のほうが少し多いが、「殴ったりけったりした」割合は、女性のほうが高い。「殴る蹴る」は、別に男性の専売特許ではないようだ。

「精神的暴力」（図4-4）「社会的暴力」（図4-5）においても、多少、女性のほうが暴力を受けている率が高いが、「どっちもどっち」という傾向がみられる。この点は、配偶者間の暴力とは違う。デート中の男女には、配偶者間に見られるような明らかな社会構造上での支配—被支配関係がないからだろう。

しかし、「性暴力」（図4-6）においては、無視できないジェンダー差がある。明らかに「性暴力被害を受けた」率は女性のほうが高く、「性暴力を与えた」率は男性のほうが高い。男性のほうが性的な能動性を要求されるという、いわゆる「男らしさ」を刷り込まれているからだろうか？ 同様に、「経済的暴力」の項では、女性のほうに「支払いは男性がするもの」という意識があるように思う。

3. デートDVへの反応

暴力への反応（図4-8）にも、ジェンダー差がある。男女ともに1位は「いやだった」（女性60.0%、男性31.9%）、2位はむかついた（腹が立った）（女性38.5%、男性29.0%）。しかし女性の3位は、「怖かった」（女性25.2%、男性1.4%）であるのに対して、男性の3位は「何とも思わなかった」（男性23.2%、女性11.9%）である。女性のほうが、暴力行為に対して敏感である。幼い頃から被害化されやすい女性の反応であり、それを女性の弱さ、脆弱性とみるべきではないことは言うまでもない。男女ともに暴力を「許せないと思った」人は少なく、「暴力は人権侵害である」という認識は低いよ

うだ。

暴力の後遺症（図4-9）については、男女ともに1位は「特に何もなかった」（女性37.8%、男性43.5%）であり、深刻な傷を受けてはいない。女性の2位は「彼を怒らせないように気を使うようになった」（女性27.4%、男性15.9%）であり、女性役割とされる「世話役割」——自分よりも他者ばかりを優先する行動が助長されるのは問題である。

4. 親密関係における暴力防止を伝えるには…

若い世代に、親密関係における暴力を防止するために何を伝えたらいいのだろうか？ DV加害者更生プログラムの権威であるランディ・バンクロフトは、著書『DV・虐待加害者の実体を知る——あなた自身の人生を取り戻すためのガイド』（明石書店、2008年）において、DV加害者との付き合いの始まりを「エデンの花園」と呼び、初めの数週間、数か月あるいはそれ以上の間、女性は加害者によって天にも昇るような扱いを受ける。そして、被害女性のほうもまた、そうされることによって、彼の畏にかかりやすくなってしまおうと述べている。ということは、デート中の加害者は、親密な恋愛関係をつくることにはたけていることになる。

バンクロフトによると、DV加害者は相手を「支配・コントロール」するのだが、その行為の根底には「特権意識」や「相手を自分のために利用する」、「相手への共感性の欠如」、「尊大さと傲慢さ」といった自己中心的な考え方や思い込みがあるという。これは、「精神的暴力」としての「モラル・ハラスメント」の特徴でもある。DV加害者は、言葉や態度での「支配・コントロール」が効かなくなると感じる時に、身体的暴力を振るうことになる。ということは、デートDVにも、このような考え方や思い込みがあるのではないだろうか。

そういう意味において、若い人たちにはぜひこのような「支配・コントロール」関係にならない対等な付き合い方、コミュニケーション関係を構築してほしい。そのためには、両性ともに「男らしさ」や「女らしさ」に捉われないジェンダー平等な親密関係のあり方を学ぶ必要があるだろう。それは、相互の自己尊重感と自己主張を認め合う関係であるはずだ。

大学などにおけるセクハラ調査委員の経験からいつも思うのは、なぜお互いの性行為への「合意」がとれないのかという問題である。相手の「合意」もとらずに[無理やり抱きついたりキスをしたりする]（P29）のはセクハラであり性暴力である。また、それを「ノー」と拒否するのはなんら失礼な態度などではないので、躊躇する必要はない。デートDVの研修では、もっと真正面から「暴力」というキーワードで取り組むべきなのではないだろうか。若い人たちにとっても、緊急の課題だと思う。

6. 調査票

平成 23 年度 デートDVに関する実態調査（京都市）

この調査は、『DV防止のためには、高校生・大学生など若者の間での暴力をなくすことが大切』という考えから、デートDVの防止に役立てるために実施するものです。DVとは、配偶者や恋人など、親しい関係の人から受ける暴力によって支配されてしまう関係のことで、特に恋愛におけるDVをデートDVといます。ぜひ調査にご協力をお願いします。

お名前を書く必要はありません。皆さんの回答はこの調査以外では使いません。また、回答用紙は責任をもって管理・処分します。なお、答えにくい設問については、答えなくても結構ですので気軽に答えてください。

途中で気分が悪くなったり、つらくなったりした時は、記入を中断してもかまいません。

問1 あなたのことについて教えてください。

- (1) あなたの性別を教えてください。 ① 女性 ② 男性
- (2) あなたの年齢を教えてください。 () 歳
- (3) 次の質問項目について、当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。
- 1 学校は楽しいですか？

①楽しい ②どちらかといえば楽しい ③どちらかといえば楽しくない ④楽しくない
 - 2 友人関係は楽しいですか？

①楽しい ②どちらかといえば楽しい ③どちらかといえば楽しくない ④楽しくない
 - 3 家庭は楽しいですか？

①楽しい ②どちらかといえば楽しい ③どちらかといえば楽しくない ④楽しくない
 - 4 自分の事が好きですか？

①好き ②まあまあ好き ③あまり好きではない ④きらい
- (4) 性についての情報はどこから得ていますか（○はいくつでも）
- ①テレビ・ラジオ ②DVD・ビデオ（映画など） ③雑誌 ④マンガ ⑤ゲーム ⑥本 ⑦友人・先輩
 ⑧交際相手（彼氏・彼女） ⑨親 ⑩きょうだい ⑪先生 ⑫授業 ⑬インターネット・携帯
 ⑭その他（ ）

問2 次のような恋愛観・価値観について、あなた自身はどう思いますか。（○はそれぞれにひとつ）

質問事項		回答			
		①	②	③	④
1	彼氏・彼女がいないのはかっこわるい	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
2	付き合っている2人の間に、秘密や隠し 事をしてはいけない	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
3	彼氏・彼女を束縛（行動チェックや人間 関係の制限など）してもかまわない	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない

質問事項		回答			
		①	②	③	④
4	彼氏・彼女に対しては、自分が説教したり、教育する権利がある	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
5	女性が嫌がっても、恋人ならセックスしてもかまわないと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
6	性関係を持ったら、相手は自分のものだと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
7	嫉妬からの暴力は、愛している(愛されている)証拠だ	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
8	暴力を振るわれる方にも問題があると思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
9	相手が同意しないのに別れるのは裏切りである	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
10	多少の暴力は男らしさだと思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
11	男性は弱音を吐くべきではない	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
12	女は男に守られたい(守るべき)ものだ	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
13	女子は口ごたえせず、男子の意見に素直に従うのがかわいい	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
14	子育て中は、女性は家庭にいるべきだ	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
15	今の社会は、男女の不平等がまだまだある	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない

問3 「デートDV」についてお尋ねします。

(1) あなたは、「デートDV」という言葉を聞いたことがありますか。 ①ある ②ない

(2) あなたは、「デートDV」を知っていますか。

①よく知っている ②少し知っている ③あまり知らない ④まったく知らない

※ここからは、(2)で「①よく知っている」「②少し知っている」「③あまり知らない」と答えた人への質問です。「④まったく知らない」に○をつけた人は、3ページ問4へ進んでください。

(3) あなたは、身近で「デートDV」を見たり聞いたりしたことがありますか。

①よくある ②少しある ③あまりない ④まったくない

(4) あなたは、デートDVを受けたことがありますか。①ある ②少しある ③あまりない ④まったくない

- (5) あなたは、デートDVをしたことがありますか。①ある ②少しある ③あまりない ④まったくない

問4 交際相手（彼氏・彼女）との関係についてお尋ねします。

(1) あなたは、交際している相手（彼氏・彼女）がいますか？

- ①今、交際している相手（彼氏・彼女）がいる
②今、彼氏(彼女)がいないが、彼氏(彼女)がいたことがある
③彼氏・彼女がいたことはない ⇒ ⇒ ⇒ 4 ページ問5に進んでください。

(2) (1)で「交際相手（彼氏・彼女）がいる」「いたことがある」と答えた人への質問です。交際相手と出会ったきっかけを教えてください（〇はいくつでも）

- ①友人・先輩からの紹介 ②きょうだいからの紹介 ③部活・クラブ活動 ④学校
⑤塾・学校外のクラブ活動 ⑥アルバイト先 ⑦インターネット・HP ⑧雑誌 ⑨携帯サイト
⑩その他（ ）

(3) 別紙の一覧から、交際相手（彼氏・彼女）に「したことがある」または交際相手から「されたことがある」ものをいくつでも選び、表に直接〇をつけてください。

※ここからは、(3)（別紙）で「された」の項目に〇をつけた人への質問です。「された」に〇がつかなかった人は、4 ページ問5へ進んでください。

(4) (3)で「された」の項目に〇をつけた人への質問です。別紙にあるような行為を受けた時、どのように思いましたか。（〇はいくつでも）

- ①怖かった ②いやだった ③自分が悪いからだと思った ④むかついた（腹が立った）
⑤びっくりした ⑥危ないと思った ⑦許せないと思った ⑧相手と別れようと思った
⑨愛されているからこそされたと思った ⑩何とも思わなかった
⑪その他（具体的に ）

(5) 別紙にあるような行為を受けたことで、あなたはどうなりましたか。（〇はいくつでも）

- ①学校・バイト先等に行けなくなった ②親や家族との関係が悪くなった
③異性のことが怖くなり、信じられなくなった ④自分はもうどうなってもいいと思った
⑤何もやる気が起きなくなった ⑥死にたい気持ちになった ⑦なんとなく体調が悪くなった
⑧病院や診療所を受診した ⑨夜眠れなくなった ⑩けがの後遺症が残った
⑪彼氏(彼女)を怒らせないように気を使うようになった ⑫彼氏(彼女)と別れようとした
⑬彼氏(彼女)と別れた ⑭携帯の番号やアドレスを替えた ⑮引っ越しをした
⑯特に何もなかった ⑰その他（具体的に ）

(6) 別紙にあるような行為を受けた時、誰かに相談しましたか？

- ① 相談した ⇒ (7)に進んでください。
② 誰にも相談しなかった ⇒ (8)に進んでください。

(7) (6)で「①相談した」と答えた人と答えた人への質問です。だれ(どこ)に相談しましたか? (〇はいくつでも)

- ①友だち・先輩 ②親 ③きょうだい ④学校の先生や相談機関
⑤学校以外の相談機関(どこ) ⑥病院 ⑦警察 ⑧その他(どこ)

(8) (6)で「②相談しなかった」と答えた人への質問です。相談しなかったのはどうしてですか? (〇はいくつでも)

- ①どこに相談していいかわからなかったから ②相談できる人がいなかったから
③相談することを思いつかなかったから ④相談するほどのことではないと思ったから
⑤相談しても仕方がないと思ったから ⑥相談することが恥ずかしかったから
⑦第三者に相談するのはよくないと思ったから ⑧自分が悪いと思ったから
⑨自分さえがまんすれば何とかかなと思ったから ⑩相手にとって自分が特別な存在だと思ったから
⑪泣いて謝ってくれたから ⑫ほかの人に知られたくなかったから
⑬周囲に心配をかけたくなかったから ⑭相手のしかえしがこわかったから
⑮その他(具体的に)

問5 すべての人への質問です。

(1) あなたの家庭に暴力はありますか? (〇はひとつ)

- ①かなりある ②まあまあある ③ほんの少しある ④まったくない

(2) デートDVをなくすためには、どうしたらよいと思いますか。あなたの考えを教えてください。(〇はいくつでも)

- ①デートDVについて(自分自身が)知ること ②学校や大学などでデートDVに関しての情報が得られること ③男女の対等な関係について学ぶ場があること ④身近に安心していつでも相談できる場所があること ⑤メールでの相談窓口があること ⑥電話での相談窓口があること ⑦家族や友人など、周囲の人のデートDVへの理解があること ⑧学校や大学などにデートDVの相談窓口があること ⑨加害者の暴力を罰せられるような制度や法律があること ⑩その他(具体的に)

問6 このアンケートについて、感じたことなどを自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。

7. 資料

座談会

調査結果をもとに、データから読み取れる（読み取るべき）視点や感想などについて自由に討議するなかで、これからの課題提案などにつなげていくための座談会を実施した。

日程：平成24年3月8日（木）14：00～16：00

会場：ウィングス京都 応接室

参加者：

伊田広行氏（神戸大学・立命館大学大学院非常勤教員）

正井礼子氏（NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ代表理事）

井上摩耶子氏（ウィメンズカウンセリング京都代表）

参考調査一覧（発行順）

- ◆ 神戸市における高校生の男女共同参画と男女間の暴力に関するアンケート調査報告書
（平成20年3月）神戸市
- ◆ 中学生の「性」に関する意識（『マンガ・雑誌の「性」情報と子どもたち』より）
（平成20年3月）NPO法人SEAN
- ◆ デートDVの被害者に関する調査報告書（平成20年6月）
日本DV防止・情報センター
- ◆ 岩手県デートDVに関する調査（中学生用）（平成21年6月）
いわてデートDV意識啓発事業推進委員会
- ◆ デートDVに関する調査報告書（平成21年6月）
名古屋男女平等参画推進センター
- ◆ 大分県内の高校生・大学生におけるデートDVに関する実態調査報告書（平成22年2月）
NPO法人えばの会
- ◆ デートDVの実態 高校生1万人調査（平成20年10月～平成22年12月）
NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ
- ◆ 奈良県高校生へのデートDV防止・DV予防教育推進事業（平成23年3月）
参画ネットなら

ほか

デートDVに関する実態調査

発行 京都市

編集 公益財団法人 京都市男女共同参画推進協会
〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下る
京都市男女共同参画センター ウィングス京都
TEL : 075-212-8013 FAX : 075-212-7460

発行年月 平成 24 年 3 月
